教育研究業績書

2025年10月20日

所属： 薬学科　　資格： 教授　　氏名： 吉田　都

研究分野	研究内容のキーワード
臨床製剤学、社会薬学	ヒトに優しい！地球に優しい！抗菌医薬品・抗菌医薬部外品の開発、薬育の構築、「楽しい」衛生的手洗い方法の開発
学位	最終学歴
博士（薬学）	九州大学大学院 薬学府 医療薬科学専攻 博士課程 中退 （福岡大学薬学部に就職のため）

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.医薬品開発の実際と製剤化	2012年～2018年	PBL（Problem-based learning）形式で行っている。すなわち、医薬品の開発から製剤化に至るまでの過程に関連する課題について少人数のグループ内で調査、考察、討議（スモールグループディスカッション：SGD）を行うことによって情報を共有化した後、全体発表を行っている。学生が、医薬品の開発の実際および製剤化に関する基礎知識を再確認するのみならず、ランダムに作られたグループの中でディスカッションを行うことによって、コミュニケーションスキルを発揮し、各グループに与えられた課題から１つの結論を導く、すなわち問題解決のために、チームワーク力、リーダーシップを発揮することが目標である。
2.臨床薬学基本実習Ⅰ（旧：プレファーマシー実習Ⅰ）	2009年～現在	実習書作成の際は、実際に病院や薬局でどのような処方箋が出されているかを事前に調査し、参考にしている。実習準備については実習が滞ることの無いよう十分に配慮している。実習の説明については特に高カロリー輸液に関する説明を行っているが、手計算によるカロリー計算の仕方、計算ソフトを用いたカロリー計算の仕方など、懇切丁寧に説明している。実習時間内に理解することが目標であることを学生に伝え、質問しやすい雰囲気作りに努めている。
3.物理薬剤学・製剤学・薬物送達システム学（旧：製剤化のサイエンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ）	2008年～現在	各講義内容に関連する薬剤師国家試験問題をまとめて配布し、解説を行っている。製剤服用時に用いる医療器具の使い方など、講義中に説明するだけでは理解しにくい内容については、実際に医療現場で用いている医療器具を見せながら使い方を説明することによって、理解を深めるなどの工夫を行っている。黒板の文字の大きさ・間隔に配慮し、一番後ろに座っている学生にも問題なく読める程度の文字の大きさ・間隔となるように心がけている。重要なポイントがわかりやすいように数回繰り返し解説するなど、メリハリをつけた講義を行うよう心がけている。
2 作成した教科書、教材		
1.臨床製剤学（改訂第5版）	2022年3月30日	本改訂版は日本薬局方第18改正に沿っており、且つ製剤の臨床応用に重点を置いた内容になっている。
2.物理薬剤学・製剤学	2018年4月10日初版第1刷	寺田勝英・内田享弘 編著、芝田信人、竹内洋文、戸塚裕一、西田孝洋、麓伸太郎、山下親正、吉田都 著
3.臨床製剤学(改訂第３版)	2012年	三嶋基弘編集、内田享弘、吉田都分担執筆、南江堂
4.Perspective 薬剤学	2011年	大戸茂弘編集，内田享弘，吉田都、分担執筆，京都廣川書店
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.博士（薬学）	2006年03月	九州大学大学院薬学府にて取得。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2.薬剤師免許	1999年	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.薬学テキストシリーズ　物理薬剤・製剤学	共	2024年2月第4刷発行	朝倉書店	（編集）寺田勝英、内田享弘、吉田都　分担執筆 「流動と変形」、「高分子」の執筆を担当した。
2.臨床製剤学（改訂第5版）	共	2022年3月30日	株式会社　南江堂	（編集）内田享弘、鈴木豊史、四方敬介、吉田都　分担執筆 ③界面現象、④レオロジー、⑥医薬品の修飾について分担執筆した。
3.臨床製剤学　改訂第４版	共	2019年第4版第2刷発行	株式会社　南江堂	（編集）三嶋基弘、内田享弘、平井正巳、川嵜博文、吉田都　分担執筆 「反応速度」、「医薬品の修飾」の執筆を担当した。
4.薬学テキストシリーズ　物理薬剤・製剤学	共	2018年初版第1刷発行	朝倉書店	（編集）寺田勝英、内田享弘、吉田都　分担執筆 「流動と変形」、「高分子」の執筆を担当した。
5.口・鼻・耳の感覚メカニズムと応用技術	共	2018年	S&T出版	吉田都　分担執筆 「味覚センサによる医薬品の味評価」について執筆を担当した。
6.薬剤学実験法必携マニュアル Pharmaceutical Scientistのために Ⅰ　物理薬剤学	共	2014年	南江堂	日本薬剤学会出版委員会編集, 内田享弘、吉田都　分担執筆 医薬品の苦味の評価とそのマスキング、p228-237 味覚センサを用いた医薬品の苦味評価について、装置の測定原理、H1拮抗薬を例に定量的苦味評価や人工甘味料併用時の苦味抑制効果の予測やキニーネを基準とした予測苦味強度の算出方法を解説した。
7.Biochemical Sensors: Mimicking Gustatory and Olfactory Senses	共	2013年	PAN STANFORD PUBLISHING	Uchida T, Yoshida M、 Quantitative evaluation of bitterness of medicines,p145-184 味覚センサを用いた医薬品の苦味とその抑制の定量的評価について，抗菌薬、漢方薬，経腸栄養剤，口腔内崩壊錠などの事例を紹介した.
8.DDS製剤の開発・評価と実用化手法	共	2013年	（株）技術情報協会	内田享弘、吉田都分担執筆 第3章DDS医薬品の有効性・安全性の評価と判断例 第2節味覚センサの医薬品揮発への応用,p141-146 異なる2種の味覚センサを利用した医薬品の苦味評価について、代表的な医薬品の苦味の定量的評価、製剤全体の味の定性的評価を行った事例を紹介した。
9.図表でわかる栄養療法―基礎から学ぶ臨床―	共	2013年	じほう	東海林徹編集，内田享弘、吉田都分担執筆 輸液フィルター,p140-145 注射用セフトリアキソンナトリウムとカルシウムの配合変化で生成する不溶性微粒子生成に及ぼす因子と溶解度積の概念を用いた予測法を紹介した.
10.食品・医薬品のおいしさと安全・安心の確保技術	共	2012年	シーエムシー出版	都甲潔監修、内田享弘、吉田都分担執筆 医薬品の苦味マスキングと味覚センサによる苦味の数値化、p109-118 化学的・物理的苦味マスキング技術について解説し、H1受容体拮抗薬や口腔内崩壊錠の味覚センサを用いた苦味マスキング評価方法について紹介した。
11.Perspective 薬剤学	共	2011年	京都廣川書店	大戸茂弘編集，内田享弘、吉田都分担執筆 半固形製剤，液状製剤，エアゾール製剤，無菌製剤，新規製剤およびDDSに関する研究，p158-194，p565-573

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				各種剤形の概略を説明し、薬剤学的研究の例として、アムロジピンOD錠の苦味などの服用性を客観的に評価した結果を詳細に解説した。
2 学位論文				
1.Glucocorticoid Is Involved in Food-Entrainable Rhythm of mu-Opioid Receptor Expression in Mouse Brainstem and Analgesic Effect of Morphine (査読付)	共	2006年	J. Pharmacol. Sci., 101, 77-84 九州大学大学院薬学府にて博士（薬学）取得	Miyako Yoshida , Hiroyuki Kiyofuji, Satoru Koyanagi, Ayaka Matsuo, Toshihiro Fujioka, Hideto To, Shun Higuchi, Shigehiro Ohdo マウスの脳幹におけるmu-opioid receptorの発現およびモルヒネの鎮痛効果には摂食リズムが影響するがそのメカニズムとしてグルココルチコイドが関与していることを明らかにした。
2.Glucocorticoid Hormone Regulates the Circadian Coordination of mu-Opioid Receptor Expression in Mouse Brainstem (査読付)	共	2005年3月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 315 (3), 1-6 九州大学大学院薬学府にて博士（薬学）取得	Miyako Yoshida, Satoru Koyanagi, Ayaka Matsuo, Toshihiro Fujioka, Hideto To, Shun Higuchi, Shigehiro Ohdo マウス脳幹におけるμ―オピオイドレセプター発現の日内変動は、グルココルチコイドが制御していることを明らかにした。
3.Chronopharmacology of Analgesic Effect and Its Tolerance Induced by Morphine in Mice (査読付)	共	2003年3月	J. Pharmacol. Exp. Ther., 305 (3), 1200-1205 九州大学大学院薬学府にて博士（薬学）取得	Miyako Yoshida, Shigehiro Ohdo, Hiroshi Takane, Yuki Tomiyoshi, Ayaka Matsuo, Eiji Yukawa, Shun Higuchi マウスを用いた研究で、モルヒネの鎮痛効果には日内変動があり、その耐性形成にも時間的差異が認められることを明らかにした。
3 学術論文				
1.Antimicrobial Activity of Positively Charged Oligopeptides with Theoretical High α-Helix Content against Cutibacterium acnes	共	2024年7月	Int. J. Mol. Sci. 2024, 25 (13), 7445; https://doi.org/10.3390/ijms25137445	Miyako Yoshida*, Saki Hayashi, Tamami Haraguchi , Momoka Ito , Yoshiro Hatanaka , Miki Yoshii, Hiroaki Tatsuoka, Shigemitsu Tanaka, Toshihiro Nagao (* corresponding author)
2.Synthesis and Photophysical Characterization of Fluorescent Naphtho[2,3-d] thiazole-4,9-Diones and Their Antimicrobial Activity against Staphylococcus Strains	共	2024年6月	Molecules 2024, 29, 2777. https://doi.org/10.3390/molecules29122777	Masayori Hagimori, Fumiko Hara, Naoko Mizuyama, Shinya Takada, Saki Hayashi, Tamami Haraguchi,Yoshiro Hatanaka, Toshihiro Nagao, Shigemitsu Tanaka, Miki Yoshii, Miyako Yoshida* (* corresponding author)
3.Antimicrobial activity of 2-(piperazin-1-yl) naphtho[2,3-d] thiazole-4,9-dione against staphylococci strains	共	2024年2月	Molecules 2024, 29(6), 1277; https://doi.org/10.3390/molecules29061277	Tamami Haraguchi, Saki Hayashi, Seira Nakasaka, Yoshiro Hatanaka, Toshihiro Nagao, Shigemitsu Tanaka, Miki Yoshii, Fumiko Hara, Masayori Hagimori , Miyako Yoshida* (* corresponding author)
4.Evaluating the Effects of	共	2023年9月	Pharmacology & Pharmacy Vol.14	Kazuhiro Matsuura, Honami Kojima, Miyako Yoshida, Takahiro Uchida

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Crystallinity on Drug Release Behaviour in Itraconazole- or Miconazole-Loaded PLGA Microparticles Prepared Using a Co-Grinding Method			No.9, September 8, 2023 DOI: 10.4236/pp.2023.149022	
5.The Inhibitory Effect of Adenylic Acid on the Bitterness of the Antibacterial Combination Drug Trimethoprim/Sulfamethoxazole	共	2023年3月	Chem Pharm Bull (Tokyo) 2023;71(3):198-205	Jun Kawahara, Yoshida M., Honami Kojima, Rio Uno, Minoru Ozeki, Ikuo Kawasaki, Masaaki Habara, Hidekazu Ikezaki, Takahiro Uchida ST合剤の苦味におよぼすアデニル酸の影響について評価した。
6.Masking the Taste of Fixed-Dose Combination Drugs: Particular NSAIDs Can Efficiently Mask the Bitterness of Famotidine.	共	2023年2月	Chem Pharm Bull (Tokyo). 2023;71(2):148-153.	Uno R, Ohkawa K, Kojima H, Haraguchi T, Ozeki M, Kawasaki I, Yoshida M., Habara M, Ikezaki H, Uchida T. NSAIDsとFamotidineの合剤の苦味抑制効果について評価した。
7.The effect of food thickeners on the bitterness and dissolution of amlodipine besilate powder when co-administered with thickeners to patients with dysphagia	共	2022年11月	Pharmacology & Pharmacy 13(11): 457-470 (2022)	Odanaga A., Kojima H., Kabeya A., Uno R., Yoshida M., Habara M., Ikezaki H., Uchida T. アムロジンベシル酸塩の粉末を嚥下補助剤と混合した後の溶出を評価した。
8.Inhibitory effect of 5-adenylic acid on bitter taste of antipsychotic drugs	共	2022年10月	Pharmacology & Pharmacy 13(10): 429-446 (2022)	Kawahara J., Uno R., Kojima H., Yoshida M., Uchida T., Ikezaki H., Habara M. 向精神薬の苦味に及ぼすアデニル酸の影響について評価した。
9.The effect of food thickeners on the bitterness and dissolution of amlodipine besilate loaded oral disintegration tablets: assessment of potential suitability for patients with dysphagia	共	2022年10月	Pharmacology & Pharmacy 13(10): 368-378 (2022)	Odanaga A., Kojima H., Uno R., Yoshida M., Uchida T., Habara M., Ikezaki H アムロジピンベシル酸塩のODTを嚥下補助剤と混合した際の溶出を評価した。
10.Preparation and Characterization of Orally Fast-Disintegrating	共	2021年12月	Pharmacology & Pharmacy, Vol.12 No.12 DOI: 10.4236/pp.	Kyoko Ohkawa, Haruka Nishikawa, Honami Kojima, Takayoshi Okuno, Rio Uno, Miyako Yoshida, Takahiro Uchida

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Mini-Tablets Containing Diphenhydramine Hydrochloride and Aspartic or Glutamic Acid as an Umami Amino Acid			2021.1212024	
11. Preparation of siRNA-PLGA/Fab'-PLGA mixed micellar system with target cell-specific recognition	共	2021年11月	Scientific Reports 11(1): 16789 (2021)	Hazekawa M., Nishinakagawa T., Mori T., Yoshida M., Uchida T., Ishibashi D. siRNA-PLGAおよびFab'-PLGAの２つのコンジュゲートで構成されたミセルを調製し、そのミセルが抗腫瘍活性を示すことを明らかにした。
12. Enhancing the anticancer efficacy of a LL-37 peptide fragment analog using peptide-linked PLGA conjugate micelles in tumor cells	共	2021年10月	International Journal of Pharmaceutics 606: 120891 (2021)	Mori T., Hazekawa M., Yoshida M., Nishinakagawa T., Uchida T., Ishibashi D. LL-37のフラグメント誘導体が抗腫瘍活性を示すことを明らかにした。
13. Antimicrobial Activities of LL-37 Fragment Mutant -Poly (Lactic-Co-Glycolic) Acid Conjugate against Staphylococcus aureus Escherichia coli, and Candida albicans	共	2021年10月	International Journal of Molecular Sciences 22 (10) : 5097	Mori T., Yoshida M, Hazekawa M., Ishibashi D., Hatanaka Y., Nagao T., Kakehashi R., Kojima H., Uno R., Ozeki M., Kawasaki I., Yamashita T., Nishikawa J., Uchida T. 抗菌ペプチドであるCKR12とPLGAのコンジュゲートは、Staphylococcus aureusおよびEscherichia coliに対する抗菌活性、 Candida albicansに対する抗真菌活性を示した。
14. pH特性曲線の理論式を用いた新規pH算出法	共	2021年9月	日本注射薬臨床情報学会誌No.9 (2021)	浅原慶一、吉田都、内田享弘 pH特性曲線の理論式を用いて注射剤の新規pH算出方法を確立した。
15. A New Bitterness Evaluation Index Obtained Using the Taste Sensor for 48 Active Pharmaceutical Ingredients of Pediatric Medicines	共	2021年6月	Chem. Pharm. Bull. 69 (6): 537-547 (2021)	Kojima H., Kurihara T., Yoshida M, Haraguchi T., Nishikawa H., Ikegami S., Okuno T., Yamashita T., Nishikawa J., Tsujino H., Arisawa M., Habara M., Ikezaki H., Uchida T. 味覚センサ測定より得られた濃度依存的な膜電位変化（CCDP）は、 48 Active 小児用医薬品の苦味評価において新しい指標となり得る。
16. Preparation of Solifenacin Succinate Functional Particles Embedded in a Gelling-Swelling Layer (PEGS) and Their Formulation in Orally Disintegrating Tablets.	共	2021年5月	Chem. Pharm. Bull. 69(5):456-463	Ijitsu S, Hoashi Y, Hori K, Okimoto K, Kai T, Yoshida M, Uchida T. ソリフェナシンコハク酸塩を苦味マスキング・速放性機能を所持する粒子に封入し、その粒子を含有する口腔内崩壊錠を開発した。
17. Preparation of	共	2021年4月	Chem. Pharm.	Ijitsu S., Hoashi Y., Hori K., Okimoto K., Kai T., Yoshida M

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Novel Functional Drug Particles Embedded in a Gelling-Swelling Layer (PEGS) for Taste Masking and Subsequent Rapid Drug Release			Bull. 69 (4): 383-390	, Uchida T. 薬物の苦味マスキングおよび速放性を兼ね備えたゲル化層を所持する経口製剤を開発した。
18. Evaluation of the Palatability of Dry Syrups and the Bitterness Intensities of Dry Syrups Mixed with Various Beverages	共	2021年2月	Pharmacology & Pharmacy 12 (2): 43-54	Kurihara T., Kojima H., Yoshida M, Oshio M., Kunikata R., Nishikawa H., Uchida T. 小児用ドライシロップの服用性には、主に味とテクスチャーが影響していることが明らかとなり、さらに、服用性の改善には甘味の添加よりも苦味をマスキングする方が重要であることが示唆された.
19. Targeted Delivery of Miconazole Employing LL37 Fragment Mutant Peptide CKR12-Poly (Lactic-Co-Glycolic) Acid Polymeric Micelles	共	2021年	Int. J. Mol. Sci., 22 (21): 12056 (2021)	Mori T., Yoshida M., et al.,
20. Development of Taste Sensor to Detect Non-Charged Bitter Substances .(査読付)	共	2020年6月	Sensors 20 (12): 3455 (2020)	Yoshimatsu J., Toko K., Tahara Y., Ishida M., Habara M., Ikezaki H., Kojima H., Ikegami S., Yoshida M., Uchida T.
21. 経口抗がん薬の経管投与における曝露対策の評価(査読付)	共	2020年5月	日本注射薬臨床情報学会誌No.8 (2020)	福永千佳子、河野えみ子、鍛治谷玲子、三箇山宏樹、關壽人、北出浩章、馬場綾、相地知子、西辻知恵美、 吉田都 、内田享弘
22. Observational study to determine the optimal dose of daptomycin based on pharmacokinetic/ pharmacodynamic analysis. (査読付)	共	2020年4月	J Infect Chemother. 26 (4): 379-384 (2020)	Yamada T., Ooi Y., Oda K., Shibata Y., Kawanishi F., Suzuki K., Nishihara M., Nakano T., Yoshida M., Uchida T., Katsumata T., Ukimura A. 薬物動態学的・薬力学的解析に基づいたダプトマイシンの投与設計について評価した。
23. Bitterness-Suppressing Effect of Umami Dipeptides and Their Constituent Amino Acids on Diphenhydramine: Evaluation by Gustatory Sensation and Taste Sensor Testing (査読付)	共	2020年3月	Chem. Pharm. Bull., 6 8 (3), 234-243	Okuno T, Morimoto S, Nishikawa H, Haraguchi T, Kojima H, Tsujino H, Arisawa M, Yamashita T, Nishikawa J, Yoshida M, Habara M, Ikezaki H,Uchida T. 酸性旨味ジペプチドおよびそのアミノ酸がジフェンヒドラミン塩酸塩に苦味を抑制することを示した。
24. The relationship between bitter taste sensor response and physicochemical properties of 47 pediatric medicines and	共	2019年12月	Chem. Pharm. Bull., 6 7 (12), 1271-1277	Haraguchi T, Okuno T, Nishikawa H, Kojima H, Ikegami S, Yoshida M, Habara M, Ikezaki H, Uchida T. 47種類の小児製剤について、センサ出力と物理化学的性質について相関性を検討した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
their biopharmaceutics classification（査読付）				
25. Preparation and evaluation of poly-γ-glutamic acid hydrogel mixtures with amlodipine besy late: effect on ease of swallo wing and taste masking（査読付）	共	2019年12月	Chem. Pharm. Bull., 67 (12), 1284-1292	Kojima H, Haraguchi T, Ikegami S, Nishikawa H, Yoshida M, Ozeki M, Kawasaki I, Uchida ポリグルタミン酸ハイドロゲルを調製し、アムロジピンベシル酸塩の苦味を抑制することを示した。
26. Preparation and evaluation of poly -γ-glutamic acid hydrogel mixtures with basic drugs or acidic drugs: effect on ease of swallowing and taste masking（査読付）	共	2019年10月	Pharmacology & Pharmacy, 10 (10), 427-444	Kojima H, Ikegami S, Nakamura S, Nishikawa H, Haraguchi T, Yoshida M, Ozeki M, Kawasaki I, Uchida T. ポリグルタミン酸ハイドロゲルを調製し、塩基・酸性医薬品の苦味抑制および嚥下に有用であることを示した。
27. A new strategy for taste masking on bitter drug by other combined drug in fixed-combi nation: bitterness of Amlodipine besylate could be masked efficiently by Valsartan.（査読付）	共	2019年9月	J. Pharm. Pharmacol., 71 (9), 1384-1392	Kojima H, Nakamura S, Haraguchi T, Yoshida M, Habara M, Ikezaki H, Uchida T. 高血圧治療で用いられる合剤の組み合わせのうち、アムロジピンベシル酸塩の苦味をバルサルタンが抑制することを示した。
28. Bitterness-Masking Effects of Different Beverages on Zopiclone and Eszopiclone Tablets.（査読付）	共	2019年5月	Chem. Pharm. Bull., 67 (5), 404-409	Yoshida M, Kojima H, Uda A, Haraguchi T, Ozeki M, Kawasaki I, Yamamoto K, Yano I, Hirai M, Uchida T. ゾピクロン錠、エスゾピクロン錠を飲料混合した場合の苦味評価を行い、クエン酸含有飲料が苦味を抑制することを示した。
29. Preparation and Characterizati on of Itraconazole- or Miconazole-Loaded PLGA Microspheres.（査読付）	共	2019年2月	Chem. Pharm. Bull., 67 (2), 106-111	Matsuura K, Kojima H, Haraguchi T, Yoshida M, Suzuki S, Suzuki T, Ando S, Uchida T. イトラコナゾールとミコナゾールのPLGAマイクロスフェア製剤を調製し評価した。
30. The utility of the artificial taste sensor in evaluating the bitterness of drugs: correlation with responses of human TASTE2 receptors	共	2018年1月	Chem Pharm Bull. 66(1): 71-77 (2018)	Haraguchi T, Uchida T, Yoshida M, Kojima H, Habara M, Ikezaki H. 味覚センサとヒト苦味受容体との相関性を評価した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
(hTAS2Rs).(査読付)				
31.Effect of self-healing encapsulation on the initial burst release from PLGA microspheres containing a long-acting prostasyclin agonist, ONO-1301.(査読付)	共	2017年7月	Chem. Pharm. Bull. 65(7): 653-659 (2017)	Hazekawa M, Kojima H, Haraguchi T,Yoshida M, Uchida T. ONO1301含有自己乳化型PLGAマイクロスフェアの初期バースト抑制作用を検討した。
32.Suppression in bitterness intensity of bitter basic drug by chlorogenic acid.(査読付)	共	2017年2月	Chem. Pharm. Bull. 65(2): 151-156 (2017)	Shiraishi S, Haraguchi T, Nakamura S, Kojima H, Kawasaki I, Yoshida M, Uchida T. クロロゲン酸による塩基性医薬品の苦味抑制効果を検討した。
33.Taste-masking effect of Chlorogenic acid (CGA) on bitter drugs evaluated by taste sensor and surface plasmon resonance on the basis of CGA-drug interactions.(査読付)	共	2017年2月	Chem. Pharm. Bull. 65(2): 127-133 (2017)	Shiraishi S, Haraguchi T, Nakamura S, Dahong Li, Kojima H, Yoshida M, Uchida T. クロロゲン酸の苦味抑制効果について味覚センサとSPR装置を用いて評価した。
34.Preparation and evaluation of physicochemical properties of Isosorbide gel composed of xanthan gum, locust bean gum and agar for improving the patient's adherence.(査読付)	共	2017年1月	International Journal of Medicine and Pharmacy. 5(1): 18-32 (2017)	Kawano Y, Kiuchi H, Haraguchi T, Yoshida M, Uchida T, Hanawa T. イソソルビドゲルについての服用性および物理化学的評価を行った。
35.Comparison of the adsorption of original and biosimilar preparations of filgrastim on infusion sets and the inhibition of adsorption by polysorbate 80.(査読付)	共	2017年1月	Chem. Pharm. Bull. 65(1): 36-41 (2017)	Tange M, Matsumoto A, Yoshida M, Kojima H, Haraguchi T, Uchida T. フィルグラスチムの先行品とバイオシミラーについて吸着性を比較検討した。
36.ゾピクロン錠とエスゾピクロン錠の苦味比較(査読付)	共	2016年5月	日本病院薬剤師会雑誌 52(5): 529-532 (2016)	宇田篤史、吉田都、原口珠実、櫨川舞、水本篤志、山本和宏、平野剛、内田享弘、平井みどり ゾピクロン錠とエスゾピクロン錠の苦味を味覚センサで測定した。
37.Quantitative prediction of bitterness masking effect of high-	共	2016年4月	Sens. Actuators B. 235: 11-17 (2016)	Wu.X, Onitake H, Haraguchi T, Tahara Y, Yatabe R, Yoshida M, Uchida T, Ikezaki H, Toko K. 味覚センサを用いて甘味剤による苦味マスキングを評価した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
potency sweetners using taste sensor.				
38. Usefulness and limitations of taste sensors in the evaluation of palatability and taste-masking in oral dosage forms. (査読付き)	共	2016年4月	Asian J Pharm. Sci. 11(4): 479-485 (2016)	Haraguchi T, Yoshida M, Kojima H, Uchida T. 味覚センサを用いた経口製剤の苦味評価の有用性と限界を説いた。
39. Consideration of dosage regimen for meropenem in mixed infusions containing L-cysteine and/or SBS(査読付)	共	2016年3月	J. Drug. Inter. Res. 39(3): 145-156 (2016)	Shino N, Nomura Y, Yoshida M, Uchida T. SBSやL-cysteinを含む輸液にメロペネムを混合して投与する際の投与設計について検討した。
40. The Role of an Impurity in Ceftriaxone Sodium Preparation for Injection in Determining Compatibility with Calcium-Containing Solutions(査読付)	共	2016年3月	Chem Pharm Bull, 64(3), 207-214 (2016)	Tange M, Yoshida M, Nakai Y, Uchida T セフトリアキソンナトリウム製剤中に含まれる夾雑物が、セフトリアキソンとカルシウムとの配合変化に影響することを検討した。
41. The Ability of foods/drinks to reduce the bitterness intensity of topiramate as determined by taste sensor analysis(査読付)	共	2016年1月	Chem Pharm Bull, 64(1), 14-20 (2016)	Haraguchi T, Uchida T, Hazekawa M, Yoshida M, Nakashima M, Sanda H, Hase T, Tomoda Y トピラマートの苦味に対する食品や飲料の影響について、味覚センサを用いて評価した。
42. Multiple linear regression analysis indicates association of P-glycoprotein substrate or inhibitor character with bitterness intensity, measured with a sensor (査読付)	共	2015年9月	J. Pharm. Sci. 104(9), 2789-2794	Yano K, Mita S, Morimoto K, Haraguchi T, Arakawa H,Yoshida M, Yamashita F, Uchida T, Ogihara T. P糖たんぱく質の基質または阻害剤の特性と味覚センサで測定した苦味との関係性を重回帰分析により評価した。
43. Evaluation of the palatabilities in 10 different famotidine orally disintegrating tablets by combination of disintegration device and taste sensor (査読付)	共	2015年8月	Drug Dev Ind Pharm, 41(8), 1387-1392	Yoshida M, Hazekawa M, Haraguchi T, Uchida T. 10種類のファモチジンOD錠について、崩壊試験器と味覚センサを組み合わせて服用性を評価した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
44.Development and evaluation of an optimized dosage regimen for carbapenems in elderly patients based on PK-PD parameters and Monte Carlo simulations（査読付）	共	2015年4月	The Japanese Journal of Nephrology and Pharmacotherapy, 4, 21-30 (2015)	Shino N, Uchida T, Yoshida M, Nomura Y. PK-PDに基づき、高齢者におけるカルバペネム系抗生物質の投与設計の評価を行い、最適化を図った。
45.Prediction of the stability of meropenem in intravenous mixtures（査読付）	共	2015年4月	Chem Pharm Bull., 63(4), 1-7	Takasu Y,Yoshida M , Tange M, Asahara K, Uchida T. メロペネムを輸液に混合した際の安定性の予測式を導き出した。
46.味覚センサを用いて医薬品の味を科学する	共	2015年2月	ファルマシア 51(2), 130-134 (2015)	吉田都、内田享弘 味覚センサに関する概説 味覚センサーを用いた様々な医薬品の苦味評価についての読み物。
47.Bitterness evaluation of acidic pharmaceutical substances (NSAIDs) using a taste sensor（査読付）	共	2014年12月	Chem Pharm Bull., 62(12), 1252-1258	Yoshida M, Haraguchi T, Uchida T. 酸性医薬品としてNSAIDsを用い、味覚センサを用いて酸性医薬品の苦味評価を行った。
48.味覚センサを用いたガストログラフィンの味評価と飲料混合時の味変化の予測（査読付）	共	2014年12月	Prog. Med., 34 (12), 2195-2200	内田 享弘、原口 珠実、吉田都 ガストログラフィンの味に関して味覚センサで評価し、さらに、様々な飲料とガストログラフィンを混合した際の味についても評価した。
49.The angiogenic effect of ONO-1301, a novel long-acting prostacyclin agonist loaded in PLGA microspheres prepared using different molecular weights of PLGA, in a murine sponge model（査読付）	共	2014年11月	Drug Dev Ind Pharm. 40(11), 1435-1442	Hazekawa M, Morihata K, Yoshida M, Sakai Y, Uchida T. ONO-1301含有PLGAマイクロスフェア局所投与後の血管新生作用を，薬物血中薬物濃度－時間曲線，製剤の局所滞留性，ヘモグロビン値より評価した.
50.Evaluation of ebastine-loaded orally disintegrating tablets using new apparatus of detecting disintegration time and e-tongue system（査読付）	共	2014年6月	J Drug Del Sci Tech, 24(6), 684-688	Haraguchi T,Yoshida M, Uchida T. エバスチン含有口腔内崩壊錠5製剤について硬度測定，崩壊時間測定，味覚センサ測定に基づくユークリッド距離より総合的な服用性の評価を行った.
51.Prediction of the stability of Octoreotide in a mixed infusion（査	共	2014年4月	Chem Pharm Bull., 62(4), 316-321	Takasu Y, Yoshida M, Simizu K, Asahara K, Tange M, Uchida T. 輸液にオクトレオチドを混合した際のオクトレオチドの安定性の予測式を導き出した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
読付）				
52.人工唾液を用いた市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性評価Ⅱ（査読付）	共	2014年3月	医学と薬学，71(3)，437-447	櫨川舞、原口珠実、吉田都、内田享弘 人工唾液を用いて、市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性について評価した。
53.味覚センサを用いたムコスタR 点眼液UD2%に含有されるレバミピドの苦味評価と飲食物による苦味抑制評価（査読付）	共	2013年11月	あたらしい眼科，30(11)，1619-1622	原口珠実、宮崎愛里、吉田都、内田享弘 味覚センサを用い，ムコスタ（R）点眼液UD2%に含有されるレバミピドの苦味は，コーヒーと同時に服用することで抑制できる可能性を見出した。
54.Comparison of the dissolution rate of ceftriaxone sodium preparations for injection（査読付）	共	2013年11月	Chem. Pharm. Bull. 61(11)，1121-1129	Tange M, Hattori Y, Otsuka M, Yoshida M , Haginaka J, Uchida T. 8種の市販セフトリアキソンナトリウム注射剤（凍結乾燥品）間の水への溶解性の差異をX線回折や示差走査熱量測定（DSC）により検証した。
55.Evaluation of palatability of 10 commercial amlodipine orally disintegrating tablets by gustatory sensation testing, OD-mate as a new disintegration apparatus and the artificial taste sensor（査読付）	共	2013年9月	J. Pharm. Pharmacol. 65(9)，1312-1320	Uchida T, Yoshida M , Hazekawa M, Haraguchi T, Furuno H, Teraoka M, Ikezaki H. アムロジピンOD錠10製剤を対象に，官能試験,口腔内崩壊錠試験器（OD-mate），センサ測定を駆使することで服用性の客観評価が可能であった。
56.SD法を用いた市販アンブロキソール錠10製剤の服用性評価（査読付）	共	2013年8月	新薬と臨牀，62(8)，13 89-1397	櫨川舞、吉田都、内田享弘 SD法を用い，市販アンブロキソール錠10製剤間の服用性の違いが，「製剤の味」と「服用時の舌触り」の二つの因子から構成されることを示した。
57.人工唾液を用いた市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性評価（査読付）	共	2013年6月	医学と薬学，69(6)，92 9-938	櫨川舞、原口珠実、六戸部真里、吉田都、内田享弘 市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠9種を対象に,高齢者を想定した少量唾液条件下での崩壊性評価と，錠剤として重要な物理的な強度を評価した論文。
58.Prediction of compatibility between ozagrel sodium preparation for injection and calcium on the basis of the solubility product（査読付）	共	2013年5月	Chem. Pharm. Bull. 61(5)，567-571	Tange M, Yoshida M , Hazekawa M, Haraguchi T, Nakai Y, Uchida T. 不溶性微粒子の測定や溶解度積の概念に基づき不溶性微粒子生成予測を行い，オザグレルナトリウムとカルシウム製剤の相互作用のリスクを評価した。
59.女性医療専門職（薬剤師）を対象とした再就職支援のためのニーズ調査（査読付）	共	2013年1月	医薬品相互作用研究，3 7(1)，9-16	吉田都、来原 晶子、豊原 朋子、片岡 和三郎、岡村 昇、三木 知博、笠井 眞二、政田 啓子、木下 健司、村田 成範、中林 利克、篠塚 和正、高橋 幸一、市川 厚、上村 直樹、後藤 惠子、宮崎 智、波多江 崇、東海林 徹、内田 享弘. アンケート調査および解析により，大学等の教育機関に対して再就職支援のための教育プログラムの構築・実施が求められていることが明らかとなった。
60.Quantitative evaluation of bitterness of H1-receptor	共	2013年1月	Sensor and Materials，25(1)，17-30	Ito M, Wada K, Yoshida M , Hazekawa M, Abe K, Chen R, Habara M, Ikezaki H, Uchida T. H1受容体拮抗薬の苦味強度と人工甘味料アセスルファムナトリウムによる苦味抑制効果について，イン

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
antagonists and masking effect of acesulfame potassium, an artificial sweetener, using a taste sensor (査読付)				セント社センサを用いて定量的に評価した。
61. A novel long-acting prostacyclin agonist (ONO-1301) with an angiogenic effect: promoting synthesis of hepatocyte growth factor and increasing cyclic AMP concentration via IP-receptor signaling (査読付)	共	2013年	J Pharmacol Sci. 123, 392-401	Uchida T, Hazekawa M, Yoshida M, Matsumoto K, Sakai Y. ONO-1301は, IP受容体を介したcyclic AMP濃度の上昇と肝細胞増殖因子の生成促進作用を介して血管新生作用を発揮することを証明した。
62. Bitterness evaluation of intact and crushed VesicareR orally disintegrating tablets using taste sensors (査読付)	共	2013年	J. Pharm. Pharmacol. 65, 980-987	Haraguchi T, Miyazaki A, Yoshida M, Uchida T. 味覚センサを用い, ベシケアROD錠粉砕時の苦味の違いを評価した. 強い粉砕は速やかな薬物放出を生じ苦味を発現する可能性が高いことを証明した。
63. Effect of antioxidants on the stability of ONO-1301, a novel long-acting prostacyclin agonist, loaded in PLGA microspheres (査読付)	共	2013年	J. Microencapsul, 30(3), 245-256	Uchida T, Hazekawa M, Morisaki T, Yoshida M, Sakai Y. ONO-1301 PLGAﾏｲｸﾛｽﾌｪｱを長期保存中に生成される酸化分解物は, 抗酸化剤BHT (ﾌﾞﾁﾙﾋﾄﾞﾛｷｼﾄﾙｴﾝ) 添加により完全に抑制できる事実を見出した。
64. Evaluation of the odor of AminolebanR EN, taste-masked with flavoured powders, by human and electronic noses (査読付)	共	2013年	J. Pharm. Pharmacol. 65, 503-511	Haraguchi T, Yoshida M, Uchida T. 専用フレーバー添加によるアミノレバン(R)ENの不快な匂いの抑制について, 匂いセンサはヒト官能試験と同等の感度で評価が可能であった。
65. Bitterness prediction of H1-antihistamines and prediction of masking effects of artificial sweeteners using an electronic tongue (査読付)	共	2013年	Int. J. Pharm. 441(1-2), 121-127	Ito M, Ikehama K, Yoshida K, Haraguchi T, Yoshida M, Wada K, Uchida T. アルファ・モス社の味覚センサを用いて, H1受容体拮抗薬の苦味と人工甘味料の苦味抑制をセンサ測定値の主成分分析に基づく新規手法で評価した。
66. Prediction of the stability of	共	2013年	Chem. Pharm. Bull, 61	Yoshida M, Takasu Y, Shimizu K, Asahara K, Uchida T. 温度やpHの影響を加味した亜硫酸水素ナトリウムを

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
imipenem in intravenous mixtures (査読付)			(1), 1-7	含む輸液混合中での抗菌薬イミペネムの安定性の予測式を誘導し，その予測性について検証した.
67. Factors affecting the bitterness intensities of ten commercial formulations of ambroxol (査読付)	共	2012年8月	Chem. Pharm. Bull, 60 (8), 949-954	Uchida T, Sugino Y, Hazekawa M, Yoshida M , Haraguchi T. 市販アンブロキソール錠10製剤の苦味強度に影響を与える因子として，薬物濃度だけでなく，服用する水の温度が影響する事実を見出した。
68. Comparison between original and generic versions of ceftriaxone sodium preparation for injection: compatibility with calcium-containing product (査読付)	共	2012年4月	Chem. Pharm. Bull., 6 0(4), 429-434	Tange M, Yoshida M , Nakai Y, Uchida T. セフトリアキソンナトリウム注射剤の先発品および後発品を対象にカルシウム含有製剤との併用時における配合変化の程度の違いを比較検討した。
69. The effect of treatment with a sustained-release prostacyclin analog (ONO-1301-loaded PLGA microspheres) on short-term memory impairment in rats with transient global cerebral ischemia (査読付)	共	2012年3月	J Microencapsul, 29(3), 211-218	Hazekawa M, Sakai Y, Yoshida M , Haraguchi T, Uchida T. ONO-1301含有PLGAマイクロスフェアを調製し，脳虚血モデルラットを用い，マイクロスフェア製剤の単回投与の短期記憶の改善作用を明らかにした。
70. 注射剤の配合変化による微粒子析出について―フェニトインナトリウム注およびセフトリアキソンナトリウム注の事例― (査読付)	共	2012年	日本注射薬臨床情報学 会会誌, 1, 21-31	内田享弘、中井由佳、丹下美緒、吉田都 フェニトインナトリウム注およびセフトリアキソンナトリウム注の配合変化により生じる不溶性微粒子生成に与える因子について精査した。
71. Single injection of ONO-1301-loaded PLGA microspheres directly after ischemia reduces ischemic damage in rats subjected to middle cerebral artery occlusion(査読付)	共	2012年	J. Pharm. Pharmacol, 64, 353-359	Hazekawa M, Sakai Y, Yoshida M , Haraguchi T, Uchida T. 一過性の脳虚血ラットを用い，脳梗塞後急性期において，ONO-1301含有PLGAマイクロスフェア製剤単回投与の脳保護薬としての有用性を明らかにした。
72. Synergistic effect of sour taste and low temperature in suppression the bitterness of Aminoleban(R) EN (査読付)	共	2011年5月	Chem. Pharm. Bull, 59 (5), 536-540	Haraguchi T, Yoshida M , Hazekawa M, Uchida T. アミノレバン(R)ENの苦味に対して，酸味添加と低温水での服用が相乗的に苦味抑制効果をもつことを官能試験と味センサを用いて定量的に評価した。
73. Influence of Swallowing Aids on the Adsorption and Palatability	共	2011年4月	Chem. Pharm. Bull, 59 (4), 434-437	Yoshida M , Hazekawa M, Haraguchi T, Uchida T. 嚥下補助製剤と併用時のクレメジン(R)細粒の服用性の改善効果をSD法を用いた因子分析で評価した. 水分散性の改善もメスシリンダー法で検証できた。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
of Kremezin(R)（査読付）				
74.クレメジンR細粒・後発品の製剤学的特性と服用性の評価（査読付）	共	2011年	新薬と臨牀, 60(8), 15 48-1553	内田享弘、吉田都 クレメジン(R)細粒の先発品および後発品の品質について，製剤学的特性の視点から評価し，SD法により服用性に影響を与える複数因子の抽出に成功した。
75.Bitterness evaluation of H1-receptor antagonists using a taste sensor（査読付）	共	2011年	Sensors & Materials, 23(8), 483-492	Ito M, Yoshida M , Kobayashi Y, Hiraoka M, Ikezaki H, Uchida T. 味覚センサを用い，H1受容体拮抗薬の苦味を評価した．センサ膜ANOとBTOの出力の違いを主成分分析結果より比較し，BTOの有用性を明らかにした。
76.Neuroprotective effect of a prostacyclin agonist (ONO-1301) with thromboxane synthase inhibitory activity in rats subjected to cerebral ischemia（査読付）	共	2011年	Pharmacol. & Pharm, 2 , 306-314	Hazekawa M, Sakai Y, Yoshida M , Haraguchi T, Uchida T. 脳虚血を施したラットにおけるONO-1301の脳保護作用を、脳組織学的評価であるPCNA，GFP染色と脳組織学的評価であるモリス水迷路試験から評価した。
77.Preparation of ONO-1301-loaded PLGA microspheres and their effect on nerve conduction velocity （査読付）	共	2011年	J. Pharm. Pharmacol, 63, 362-368	Hazekawa M, Sakai Y, Yoshida M , Haraguchi T, Morisaki T, Uchida T. 最適化した平均粒子径約30μmのONO-1301含有PLGAMSが，糖尿病モデルラットにおいて優れた末梢神経障害改善効果を持つ事実を明らかにした。
78.A New Method for Evaluating the Bitterness of Medicines in Development Using a Taste Sensor and a Disintegration Testing Apparatus（査読付）	共	2010年8月	Chem. Pharm. Bull., 5 8(8), 1009-1014	Tsutomu Harada, Takahiro Uchida, Miyako Yoshida , Yoshikazu Kobayashi, Ryuichi Narazaki, and Takayuki Ohwaki. 味覚センサ法と口腔内崩壊錠試験器を用いた評価系を併用することで，医薬品の苦味を多角的に評価する新たな方法を開発した。
79.Bitterness Suppression of the Kampo Medicine ‘Orengedokuto’ Using Flavoured Jellies （査読付）	共	2010年4月	Chem. Pharm. Bull., 5 8(4), 449-453	Miyako Yoshida , Emi Tokuyama, Mai Hazekawa, Takahiro Uchida 黄連解毒湯を各種呈味のフレーバー付ゼリーで服用する場合の苦味抑制効果についてSD法，官能試験，味センサ法を用いて定量的に評価した。
80.Prediction of incompatibility of ceftriaxone sodium with calcium ions using the ionic product（査読付）	共	2010年1月	YAKUGAKU ZASSHI, 130(1), 95-102	Nakai, Y., Tokuyama, E., Yoshida, M , Uchida. T. 注射剤セフトリアキソンナトリウムとカルシウムイオンの配合変化について，イオン積を用いて沈殿物重量および不溶性微粒子数を予測した。
81.武庫川女子大学薬学研究科昼夜開講（社会人）大学院におけるPhaSeal(R) systemを用いた模擬抗がん剤調製実習プ	共	2010年	医療薬学, 36(5), 328- 334	櫨川舞、 原口珠実、 岡田祥恵、、吉田都、内田享弘 本学昼夜開講大学院の実習で実施したPhaSeal(R) system を用いた模擬抗がん剤調製実習のプログラム紹介とアンケートによりその教育効果を検証した論文。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
ログラム （査読付）				
82. Incompatibility of ceftriaxonesodium with calcium - containing Products（査読付）	共	2009年11月	YAKUGAKU ZASSHI, 129(11), 1385-1392	Yuka Nakai, Emi Tokuyama, Miyako Yoshida , Takahiro Uchida セフトリアキソンとカルシウムの沈殿反応に対する カルシウム濃度，保存温度，振とうの影響を光遮蔽 型自動微粒子測定装置と顕微鏡を用いて評価した。
83. Optimization study for the dilution of phenytoin sodium injection: safe administration in clinical practice （査読付）	共	2009年6月	Asian J. Pharm. Sci., 4(6):324-330	Yuka Nakai, Emi Tokuyama, Keiichi Asahara, Miyako Yoshida , Takahiro Uchida. 医療現場での安全な投与のために，フェニトイン注 射剤の希釈濃度の最適化するため光遮蔽型自動微粒 子測定装置およびHPLC法を用いて評価した.
84. 新しいアムロジンROD錠（SUITAB-NEXR/アムロジピン口腔内崩壊錠）の服用性の定量評価（査読付）	共	2009年5月	「新薬と臨牀」, 58(5) , 54-62	内田享弘、徳山絵生、吉田都 新製剤のアムロジンROD錠を用いて服用性をインセン ト社およびAlpha MOS社の二種の味センサで定量的に 評価し，改良製剤での苦味抑制を確認した。
85. Famotidine orally disintegrating tablets: bitterness comparison of original and generic products （査読付）	共	2009年4月	Chem. Pharm. Bull., 5 7(4),382-387	Tokuyama E, Matsunaga C, Yoshida K, Mifsud JC, Irie T, Yoshida M , Uchida T. ファモチジン口腔内崩壊錠の先発品と後発品の溶出 液について、味センサ（Alpha MOS）を用いた主成分 分析，HPLC法，ヒト官能試験により評価した。
86. RAPID INFUSION OR DILUTION IS EFFECTIVE IN REDUCING PHLEBITIS CAUSED （査読付）	共	2009年3月	Asian J. Pharm. Sci., 4(3):1-6	Setsuko Anami, Mayumi Nisikata, Kenji Matsuyama, Takashi Kuwahara, Yukiko Murata, Miyako Yoshida , and Takahiro Uchida. エピルビシン投与時に生じる静脈炎に関して点滴静 注時のエピルビシン溶液濃度及び点滴速度の効果を ウサギ介耳静脈病理組織から評価した。
87. クラリスロマイシンドライシロップ製剤の酸性スポーツ飲料併用時およびムコダイン(R)DS併用時の苦味予測 （査読付）	共	2009年	医療薬学，36(4), 262- 269	櫨川舞，盛崎友美，藤井香保里，丹下美緒，原口珠実，吉田都，内田享弘 クラリスロマシンドライシロップ（CAMDS）と酸性ス ポーツ飲料またはムコダイン(R)DSを併用する場合の 苦味強度を簡易溶出法により得られた薬物濃度より 予測した。
88. 注射剤の配合変化によるリスクの回避－注射用セフトリアキソンナトリウムとカルシウム含有製剤の配合変化を例にして－（査読付）	共	2009年	静脈経管栄養，24 (6), 5-11	中井由佳、徳山絵生、吉田都、内田享弘 セフトリアキソンイオンとカルシウムイオンによる 沈殿物形成に及ぼす保存温度，振とうの影響を光遮 蔽型自動微粒子測定装置を用いて評価した.
89. 経口苦味マスキング製剤の品質評価（査読付）	共	2008年11月	月刊薬事、57(11) 1701 -1708	内田享弘、徳山絵生、吉田都、奥原有希子 ドライシロップ、口腔内崩壊錠、経腸栄養剤などの 苦味マスキング製剤について、種々の角度から品質 を評価した成果について紹介した。
90. A new acylphloroglucinol glycoside from Solidago altissima L （査読付）	共	2008年2月	Nat Med (Tokyo), 62(2):199-201	Haili Jin, Keiko Ogino, Toshihiro Fujioka, Miyako Yoshida, Kanji Ishimaru Solidago altissimaよりacylphloroglucinol glycosideを抽出し、 構造決定した。
91. Preparation and In Vivo Evaluation of a Water-soluble	共	2007年	Drug Metab. Dispos. 35(9), 1502-1510	Nami Akaho, Jiro Takata, Takeshi Fukushima, Kazuhisa Matsunaga, Akihiro Hattori, Ryoji Hidaka, Kosuke Fukui, Miyako Yoshida, Toshihiro Fujioka, Yoshiharu Karube,

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
Prodrug for 2R-gamma-Tocotrienol and as a Two-step Prodrug for S-gamma -CEHC in Rat（査読付）				Kazuhiro Imai ラットを用いて、2R- gamma-Tocotrienol とS-gamma -CEHCのプロドラッグの薬理効果を評価した。
92.A new chalcone glycoside from Sapium sebiferum（査読付）	共	2007年	J. Nat.Med., 61, 339-341	Sumei Huang, Toshihiro Fujioka, Miyako Yoshida , Kanji Ishimaru Sapium sebiferumより新規chalcone glycosideを抽出し、構造決定した。
93.セイタカアワダチソウの組織培養とポリフェノール類生産(査読付)	共	2006年	日本食品化学学会誌13(3), 136-140	金海麗，田中隆，河野功，藤岡稔大，吉田都，石丸幹二 セイタカアワダチソウの組織培養し、ポリフェノール類生産することが 明らかとなった。
94.自然発症２型糖尿病モデルラットに対するココナッツ酵素製剤の抗糖尿病作用(査読付)	共	2006年	機能性食品と薬理栄養, 3(4), 285-290	江頭伸昭，溝上裕子，高垣祐紀，西田翔，吉田都，藤岡稔大，三島健一，岩崎克典，中村陽介，持田肇，藤原道弘 自然発症２型糖尿病モデルラットに対して、ココナッツ酵素製剤が抗糖尿病作用を示すことが見いだされた。
95.中国産健康食品「Qiao Qi Jiao Nang」とグリメピリド併用による低血糖（査読付）	共	2006年	医療薬学, 32(5), 407-413	神村英利，吉田都，冨永博之，宮崎悟，藤岡稔大，佐々木悠，加留部善晴 中国産健康食品「Qiao Qi Jiao Nang」とグリメピリド併用により低血糖症状があらわれた。その理由として、「Qiao Qi Jiao Nang」中に糖尿病治療薬が含まれている可能性を示した。
96.Hemiphargma heterophyllum の組織培養と二次代謝物生産（査読付）	共	2006年	日本食品化学学会誌, 13(1), 29-34	森暁美，藤岡稔大，吉田都，穴井豊昭，石丸幹二 Hemiphargma heterophyllum の組織培養し、二次代謝物の構造決定を行った。
97.Antiproliferative Constituents from Umbelliferae Plants.IX.New Triterpenoid Glycosides from the Fruits of Bupleurum rotundifolium（査読付）	共	2006年	Chem.Pharm. Bull., 54(12), 1694-1704	Toshihiro Fujioka, Keisuke Yoshida, Hiroko Shibao, Tsuneatsu Nagao, Miyako Yoshida, Kazuhisa Matsunaga, Jiro Takata, Yoshiharu Karube, Yukiko Iwase, Hikaru Okabe, Kunihide Mihashi Bupleurum rotundifolium の果実に含まれるTriterpenoid Glycosides の抗腫瘍活性を評価した。
98.Antiproliferative Constituents from Umbelliferae Plants VII. Active Triterpenes and Rosmarinic Acid from Centella Asiatica （査読付）	共	2005年	Biol. Pharm. Bull., 28(1), 173-175	Miyako Yoshida, Masahiro Fuchigami, Tsuneatsu Nagao, Hikaru Okabe, Kazuhisa Matsunaga, Jiro Takata, Yoshiharu Karube, Ryota Tsuchihashi, Junei Kinjyo, Kunihide Mihashi, Toshihiro Fujioka Centella Asiaticaより得られたTriterpenesやRosmarinic Acidが抗腫瘍活性を示すことが認められた。
99.Effect of Haloperidol on mPerl Gene Expression in Mouse Suprachiasmatic Nuclei（査読付）	共	2005年	J. Biol. Chem., 280 (8), 6309-6315	Viyoch, Naoya Matsunaga, Miyako Yoshida, Hideto To, Shun Higuchi, Shigehiro Ohdo マウスのSuprachiasmatic NucleiにおけるmPerl発現に及ぼすハロペリドールの影響について検討した論文。
100.植物ポリフェノール－豆由来タンパク質複合体の調製と機能性 （査読付）	共	2004年	日本食品科学工学会誌, 51(11), 626-632	黄素梅，重富宣雄，田中章江，寺原典彦，藤岡稔大，吉田都，石丸幹二 植物ポリフェノール－豆由来タンパク質複合体の調製し、機能性を評価した。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1．学会ゲストスピーカー				
1.日本の学術業界におけるジェンダード・イノベーションズ：女性研究者として生きてきたこれまでの振り返りとこれからの展望	単	2024年3月23日	福岡　薬剤学シンポジウム　第1部　研究・教育の多様性と医療との融合　第2部　大戸茂弘教授　退官記念講演・最終講義	九州大学　大学院　薬学研究院　大戸茂弘教授　退官記念講演シンポジウムの第１部にて、同門の中で初めて女性で大学教授になったということで、「女性研究者として生きてきたこれまでの振り返りとこれからの展望」について発表した。
2.塩基性医薬品と酸性物質との静電相互作用を機序とした苦味マスキングの設計と応用展開	単	2023年3月23日	第8回食品ユニハ゛ーサルテ゛サ゛イ研究会 (地独)大阪産業技術研究所森之宮センター	苦味を呈する塩基性医薬品原末に酸性物質を添加することで、苦味を軽減できることを明らかにした。更に、酸性アミノ酸で構成されており、納豆菌が産生するγ-ポリグルタミン酸（PGA)に着目し、このPGAをL-Lysで架橋したハイドロゲル（PGA gel)を調製し、医薬品の苦味抑制ならびに嚥下補助剤としての適用が可能であることを明らかにした。以上の研究成果を紹介する。
3.抗菌ペプチドおよび抗菌ペプチドのバイオコンジュゲートの抗微生物活性評価ー抗菌ペプチドの薬物送達システムへの応用ー	単	2023年2月15日	研究成果の社会還元促進に関する発表会 武庫川女子大学	ヒトの抗菌ペプチドLL-37のフラグメントであるFK-13の構造を基に、更にプラス荷電およびαヘリックス構造の含有率を増やした類似体であるCKR12を合成した。また、CKR12単独では不安定であるため、安定化を目的としてCKR12に生分解性ポリマーであるPLGAをジスルフィド結合させることによってバイオコンジュゲートを調製し、黄色ブドウ球菌（S. aureus）、大腸菌（E.Coli）および真菌(C. albicans)対する抗微生物活性を評価した。CKR12-PLGAのバイオコンジュゲートが自己会合型ミセルを形成する性質を応用し、抗真菌薬のミコナゾールを封入したCKR12-PLGAミセルの抗真菌活性を評価し、CKR12-PLGAのバイオコンジュゲートの薬物送達システムへの応用の可能性を検討した。
2．学会発表				
1.抗菌オリゴペプチドCKR-13による表皮ブドウ球菌のバイオフィルム形成阻害作用	共	2024年3月30日	日本薬学会第144年会(横浜)	Miyako Yoshida, Saki Hayashi, Tamami Haraguchi, Miki Yoshii, Shigemitsu Tanaka, Rie Kakehashi, Makoto Nakagawa, Toshihiro Nagao
2.武庫川女子大学式薬育研究ー衛生的手洗い教材の開発ー	共	2024年3月29日	日本薬学会第144年会	Saki Hayashi, Tamami Haraguchi, Minako Yoshii, Akiko Kuwahara, Midori Horie, Takashi Hatae, Miyako Yoshida
3.A design of the bitterness masking of basic active pharmaceutical ingredient that assumed electrostatic interaction with the acid material as bitterness masking mechanism	共	2023年11月30日	ActuSensResEcon2023e2	Miyako Yoshida, Saki Hayashi, Tamami Haraguchi
4.抗菌オリゴペプチドCKR-13の緑膿菌に対する抗菌活性およびバイオフィルム形成阻害作用の検討	共	2023年10月14日	第73回日本薬学会関西支部総会・大会	吉田都、原口珠実、宇野莉央、畠中芳郎、田中重光、吉井未貴、永尾寿浩
5.2-(piperazin-1-yl)naphtho[2,3-d]thiazole-4,9-dioneの抗菌メカニズムに関する研究	共	2023年10月14日	第73回日本薬学会関西支部総会・大会	原口珠実、宇野莉央、畠中芳郎、永尾寿浩、田中重光、吉井未貴、高田慎也、原史子、萩森政頼、吉田都
6.アデニル酸を用いた抗精神病薬の苦味抑制に関する研究	共	2023年5月18日	日本薬剤学会第38年会	内田　享弘、川原　　淳、吉田　　都、小島　穂菜美、宇野　莉央武庫
7.Aminonaphto[2,3-d]thiazole-4,9-dione	共	2023年5月18日	日本薬剤学会第38年会	吉田都 、宇野 莉央、畠中 芳郎、永尾 寿浩、吉井 未貴、原　史子、萩森　政頼

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
誘導体の抗菌活性				Aminonaphto[2,3-d]thiazole-4,9-dione誘導体の黄色ブドウ球菌・MRSA・表皮ブドウ球菌に対する抗菌活性を評価した。
8.抗菌ペプチドフラグメント変異体CKR12-PLGAコンジュゲートによる抗真菌活性の向上	共	2022年3月25日～28日（オンライン）	日本薬学会第142年会	吉田都 、森健、櫨川舞、石橋大輔、畠中芳郎、永尾寿浩、懸橋理枝、吉井未貴、中川充、小島穂菜美、宇野莉央、内田享弘
9.配合剤として用いられる2剤の医薬品混合時の苦味抑制メカニズムの推定	共	2022年3月25日～28日（オンライン）	日本薬学会第142年会	宇野莉央、中村早貴、原口珠実、小島穂菜美、 吉田都 、内田享弘
10.薬局実務実習に関するアンケート調査より解析されたコロナ禍の影響	共	2021年10月9日～10日（オンライン）	第31回日本医療薬学会	吉田都、小島穂菜美、宇野莉央、内田享弘、大川恭子、笠井眞二、政田啓子、池上咲枝里、井上智咲、波多江崇、森山賢治、中村一基、篠塚和正
11.病院実務実習に関するアンケート調査より解析されたコロナ禍の影響	共	2021年10月9日～10日（オンライン）	第31回日本医療薬学会	小島穂菜美、吉田都、宇野莉央、内田享弘、桒原晶子、豊原朋子、濱宏仁、辻本勉、片岡和三郎、田崎眞生、波多江崇、森山賢治、中村一基、篠塚和正
12.ミコナゾールを封入した抗菌ペプチド-乳酸・グリコール酸共重合体コンジュゲートのミセルの調製および抗真菌活性評価	共	2021年10月9日(オンライン)	第71回日本薬学会関西支部	森健、吉田都、櫨川舞、小島穂菜美、宇野莉央、吉井未貴、永尾寿浩、畠中芳郎、中川充、懸橋理枝、石橋大輔、内田享弘
13.医薬品配合剤の苦味評価および苦味抑制メカニズムの推定	共	2021年10月9日(オンライン)	第71回日本薬学会関西支部	宇野莉央、中村早貴、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
14.味覚センサおよび1H-NMRを用いた医薬品配合剤の苦味評価	共	2021年5月13日～5月15日(オンライン)	日本薬剤学会第36年会	小島穂菜美、中村早貴、原口珠実、吉田都、内田享弘
15.抗菌ペプチドフラグメント誘導体およびPLGAコンジュゲートによる抗菌活性の向上	共	2021年3月26日～29日 （オンライン）	日本薬学会第141年会	森健、吉田 都、櫨川舞、石橋大輔、畠中芳郎、永尾寿浩、懸橋理枝、小島穂菜美、小関稔、川崎郁勇、山下沢、西川淳一、内田享弘
16.市販ドライシロップの服用性および各種飲料混合時の苦味評価	共	2021年3月26日～29日 （オンライン）	日本薬学会第141年会	栗原稔男、小島穂菜美、吉田 都、大塩瑞穂、國方梨乃、内田享弘
17.改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した薬局実務実習における実習生の理解度および満足度に関するアンケート解析	共	2020年10月24日～11月1日(オンライン)	第30回日本医療薬学会	吉田 都、内田享弘、大川恭子、笠井眞二、政田啓子、原口珠実、藤原由梨、池上咲枝里、井上智咲、波多江崇、森山賢治、中村一基、篠塚和正
18.改訂薬学教育モデル・コアカリキュラムに準拠した病院実務実習における実習生の理解度および満足度に関するアンケート解析	共	2020年10月24日～11月1日(オンライン)	第30回日本医療薬学会	小島穂菜美、吉田 都、内田享弘、桒原晶子、豊原朋子、濱宏仁、辻本勉、片岡和三郎、綿本有希子、田崎眞生、波多江崇、森山賢治、中村一基、篠塚和正
19.WHO小児用医薬品リスト収載の48医薬品を用いた味覚センサの新規苦味指標の開発	共	2020年10月10日(オンライン)	第70回日本薬学会関西支部	小島穂菜美、栗原稔男、吉田 都、原口珠実、池上咲枝里、山下沢、西川淳一、辻野博文、有澤光弘、内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
20.苦味抑制効果を有する旨味ペプチド由来アミノ酸を含有したジフェンヒドラミン塩酸塩口腔内崩壊錠の調製とその評価	共	2020年10月10日(オンライン)	第70回日本薬学会関西支部	西川知花、栗原稔男、奥野敬義、池上咲枝里、小島穂菜美、吉田 都、内田享弘
21.γ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルを用いた薬物の苦味抑制効果と嚥下性の評価	共	2020年5月14日～16日	日本薬剤学会第35年会　（熊本）	池上咲枝里、小島穂菜美、西川知花、吉田都、内田享弘
22.旨味ペプチドによる医薬品の苦味マスキングおよびメカニズムの検討	共	2020年5月14日～16日	日本薬剤学会第35年会　（熊本）	西川 知花，奥野 敬義，小島 穂菜美，池上 咲枝里，辻野 博文，有澤 光弘，山下 沢，西川 淳一，吉田 都，内田 享弘
23.WHO小児用必須医薬品リスト収載の医薬品原末に関するBitterness identification systemの構築	共	2020年5月14日～16日	日本薬剤学会第35年会　（熊本）	小島 穂菜美，原口　珠実，奥野　敬義，池上 咲枝里，西川 知花，辻野 博文，有澤 光弘，山下 沢，西川 淳一，吉田都，内田 享弘
24.薬物混合γ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルの苦味抑制効果および分子間相互作用解析	共	2020年3月25日～28日	日本薬学会第140年会（京都）	西川知花、小島穂菜美、中村思穂、池上咲枝里、吉田都、内田享弘
25.γ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルの調製とその物理化学的性質およびテクスチャーの評価	共	2020年3月25日～28日	日本薬学会第140年会（京都）	池上咲枝里、小島穂菜美、中村思穂、西川知花、吉田都、内田享弘
26.学生アンケート調査に基づいた病院実務実習の内容および意義の理解度、総合評価に及ぼす要因解析	共	2019年11月3日～6日	第29回日本医療薬学会　（福岡）	小島穂菜美、吉田都、内田享弘、栗原晶子、豊原朋子、濱宏仁、辻本勉、片岡和三郎、綿本有希子、田崎眞生、波多江崇、森山賢治、三木知博、篠塚和正
27.Factors of bitterness in clinical medicines for pediatric patients evaluated by correlation between physicochemical prop erties or biopharmaceutics cla ssification and taste sensor r esponses	共	2019年11月3日～6日	AAPS 2019 Pharmsci 360 (San Antonio, USA)	Uchida T, Okuno T, Haraguchi T, Kojima H, Ikegami S, 、Yoshida M.
28.学生アンケート調査に基づいた薬局実務実習の内容および意義の理解度、総合評価に及ぼす要因解析	共	2019年11月2日～4日	第29回日本医療薬学会年会　（福岡）	吉田都、内田享弘、大川恭子、笠井眞二、政田啓子、原口珠実、藤原由梨、池上咲枝里、井上智咲、波多江崇、森山賢治、三木知博、篠塚和正
29.薬物の苦味抑制と嚥下補助を目的としたγ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルの調製とその評価	共	2019年10月12日	第69回日本薬学会近畿支部総会・大会（神戸薬科大）	中村思穂、小島穂菜美、池上咲枝里、吉田都、内田享弘
30.薬物の苦味抑制を目	共	2019年5月	日本薬剤学会第34	小島穂菜美、原口珠実、王文平、池上咲枝里、吉田都、内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
的としたγ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルの調製		16日～18日	年会 （富山）	
31.低分子ペプチドによるジフェンヒドラミン塩酸塩の苦味抑制効果	共	2019年5月16日～18日	日本薬剤学会第34年会 （富山）	西川知花、奥野敬義、森本栞、原口珠実、小島穂菜美、池上咲枝里、王文平、吉田都、内田享弘
32.味覚センサを用いたγ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルによる薬物の苦味抑制評価	共	2018年11月23日～25日	第28回日本医療薬学会 （神戸）	小島穂菜美、市川聽奈、井上由梨、原口珠実、＜U＞吉田都、内田享弘
33.長期実務実習における代表的8疾患の実施状況に関するアンケート調査解析	共	2018年11月23日～25日	第28回日本医療薬学会 （神戸）	吉田都、内田享弘、桒原晶子、豊原朋子、片岡和三郎、原口珠実、小島穂菜美、福田侑梨子、綿本有希子、藤原由梨、波多江崇、三木知博、中林利克、篠塚和正
34.薬物の苦味抑制剤としての旨味ペプチドの有用性評価	共	2018年11月23日～25日	第28回日本医療薬学会 （神戸）	内田享弘、森本栞、春名麻美、小島穂菜美、原口珠実、吉田都
35.WHO小児用必須医薬品リスト収載 薬物の苦味と物性の相関性評価	共	2018年11月23日～25日	第28回日本医療薬学会 （神戸）	原口珠実、小島穂菜美、村上絢香、堀恵里加、西川知花、井上穂南、＜U＞吉田都＜/U＞、内田享弘
36.Evaluation the bitterness masking effect of umami peptides on bitter drugs by taste sensor measurement and human sensation test	共	2018年11月4日～8日	AAPS 2018 Pharmsci 360 (Washington D. C., USA)	Uchida T, Morimoto S, Kojima H, Haraguchi T, Yoshida M.
37.表面プラズモン共鳴（SPR）法を 用いた薬物の苦味受容体サブタイプへの応答予測	共	2018年10月13日	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会（姫路獨協大）	市川聽奈、西川知花、井上穂南、井上由梨、廣田理奈、山本 優、原口珠実、小島穂菜美、吉田 都、内田享弘
38.γ-ポリグルタミン酸ハイドロゲルを用いた医薬品の苦味抑制効果	共	2018年10月13日	第68回日本薬学会近畿支部総会・大会（姫路獨協大）	井上由梨、井上穂南、西川知花、市川聽奈、小島穂菜美、原口珠実、吉田 都、内田享弘
39.旨味ペプチドによる医薬品の苦味マスキングおよびメカニズムの検討	共	2018年10月12日	第69回日本薬学会近畿 支部総会・大会（神戸薬科大）	西川知花、奥野敬義、小島穂菜美、池上咲枝里、辻野博文、有澤光弘、山下沢、西川淳一、吉田都、内田享弘
40.Taste masking evaluation of combination Amlodipine besylate and Valsartan using taste sensor and human sensation test.	共	2018年7月22日～24日	CRS	Haraguchi T., Kojima H., Nakamura S., Yoshida M., Uchida T.
41.Taste masking evaluation of combination Amlodipine besylate and Valsartan using	共	2018年7月	2018 CRS Annual Meeting & Exposition (New York, USA)	Haraguchi T, Kojima H, Nakamura S, Yoshida M, U？ chida T.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
taste sensor and human sensation test.				
42.小児用必須医薬品の苦味と物性の相関性評価	共	2018年5月30日～6月1日	日本薬剤学会第33年会(静岡)	原口珠実、小島穂菜美、＜U＞吉田都＜/U＞、内田享弘
43.旨味ペプチドを用いた医薬品の苦味マスキング効果	共	2018年5月30日～6月1日	日本薬剤学会第33年会(静岡)	小島穂菜美、森本栞、奥野敬義、原口珠実、吉田都、内田享弘
44.小児用必須医薬品の苦味と物性の相関性評価	共	2018年5月30日～6月1日	日本薬剤学会第33年会	原口珠実、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
45.旨味ペプチドを用いる医薬品の苦味マスキング効果	共	2018年5月30日～6月1日	日本薬剤学会第33年会	小島穂菜美、森本栞、奥野敬義、原口珠実、吉田都、内田享弘
46.Correlation between response to artificial taste sensors and response to human TASTE2 receptors (hTAS2Rs) stimulated with bitter compounds	共	2017年11月12日～15日	AAPS	Uchida T., Haraguchi T., Kojima H., Yoshida M., Habara M., Ikezaki H.
47.低分子ペプチドによる医薬品の苦味マスキング	共	2017年11月3日～5日	第27回日本医療薬学会年会	森本栞、原口珠実、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
48.味覚センサを用いたゾピクロン錠の飲料による苦味マスキング効果およびメカニズムの検討	共	2017年11月3日～5日	第27回日本医療薬学会年会	吉田都、宇田篤史、原口珠実、小島穂菜美、山本和宏、平井みどり、内田享弘
49.在宅医療における薬剤師の役割	共	2017年10月14日	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会	廣田理奈、黒田泰司、吉田都、原口珠実、小島穂菜美、内田享弘
50.味覚センサを用いた旨味ペプチドによる医薬品の苦味マスキング評価	共	2017年10月14日	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会	森本栞、原口珠実、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
51.アゾール系抗真菌薬含有自己修復マイクロスフェアの調製とその評価	共	2017年10月14日	第67回日本薬学会近畿支部総会・大会	小島穂菜美、原口珠実、吉田都、内田享弘
52.内服剤および注射剤に関する臨床製剤学的研究	共	2017年8月27日	兵庫県薬剤師会・病院薬剤師会連携1周年記念大会	吉田都、原口珠実、小島穂菜美、内田享弘
53.Bitterness suppression on basic drug by chlorogenic acid evaluated by taste sensor and lH-NMR	共	2017年7月16日～19日	CRS	Kojima H., Shiraishi S., Nakamura S., Haraguchi T., Yoshida M., Uchida T.
54.Bitterness intensity of medicin clud be masked efficiently by combination of drugs on taste sensor and human	共	2017年5月21日～24日	PSWC	Haraguchi T., Nakamura S., Kojima H., Yoshida M., Uchida T.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
volunteers				
55.薬物のヒト苦味受容体hTAS2Rs応答に関わる因子の探索	共	2017年5月11日～13日	日本薬剤学会第132年会	原口珠実、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
56.味覚センサを用いた薬物混合液の苦味評価	共	2017年5月11日～13日	日本薬剤学会第132年会	小島穂菜美、中村早貴、原口珠実、吉田都、内田享弘
57.味覚センサと1H-NMRを用いたクロロゲン酸によるジフェンヒドラミン塩酸塩の苦味抑制に関する評価および機序の解明	共	2017年3月25日～27日	日本薬学会第137年会	小島穂菜美、白石早祐子、中村早貴、原口珠実、吉田都、内田享弘
58.味覚センサと1H-NMRを用いた降圧薬2種混合による医薬品原末の苦味抑制効果とその機序の解明	共	2017年3月25日～27日	日本薬学会第137年会	原口珠実、中村早貴、白石早祐子、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
59.アゾール系抗真菌薬含有自己修復マイクロスフェアの調製とその評価	共	2016年10月15日	第66回日本薬学会近畿支部大会・総会	西田未奈、西村美紀、藤井美奈子、橋本明希、小島穂菜美、原口珠実、吉田都、内田享弘
60.味覚センサを用いた降圧薬原末2種混合試料の苦味評価	共	2016年10月15日	第66回日本薬学会近畿支部大会・総会	吉田都、原口珠実、白石早祐子、中村早貴、小島穂菜美、内田享弘
61.医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸－医薬品相互作用の解析とその関連物質の苦味抑制効果	共	2016年10月15日	第66回日本薬学会近畿支部大会・総会	白石早祐子、中村早貴、原口珠実、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
62.フィルグラスチムの輸液器具への吸着に及ぼすポリソルベート80の影響	共	2016年9月17日～19日	第26回日本医療薬学会年会	小島穂菜美、丹下美緒、松本晃乃、原口珠実、吉田都、内田享弘
63.NSAIDsと胃粘膜保護薬配合剤の苦味評価	共	2016年9月17日～19日	第26回日本医療薬学会年会	中村早貴、原口珠実、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
64.武庫川女子大学における長期実務実習に関するアンケート調査－文部科学省改訂薬学教育モデルコアカリキュラム対応環境整備を目的として－	共	2016年8月27日～28日	第１回日本薬学教育学会大会	吉田都、内田享弘、楽原晶子、豊原朋子、片岡和三郎、原口珠実、小島穂菜美、綿本有希子、藤原由梨、高道二千香、髙橋幸一、岡村昇、中村一基、森山賢治、奥田浩人、三木知博、中林利克、市川厚、篠塚和正
65.Analysis the responses of human bitterness receptor agonists toward taste sensors	共	2016年7月17日～20日	CRS	Tamami Haraguchi, Takahiro Uchida, Miyako Yoshida, Honami Kojima, Masaaki Habara, Hidekazu Ikezaki
66.Evaluation of bitterness masking effect using fabricated sensors for artificial sweetener	共	2016年6月6日～8日	ISOT	Tomohiro Hattori, Xiao Wu, Hideya Onitake, Tamami Haraguchi, Yusuke Tahara, Rui Yatabe, Miyako Yoshida, Masato Yasuura, Hirotaka Okazaki, Takahiro Uchida, Hidekazu Ikezaki, Kiyoshi Toko
67.Evaluation the odour of nutrient	共	2016年5月25日～27日	BIOSENSORS	Takahiro Uchida, Tamami Haraguchi, Miyako Yoshida, Honami Kojima

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
product by human and electronic nose system				
68.Evaluation the effect of chlorogenic acid on bitter drugs using taste sensor system and surface plasmon resonance (SPR)	共	2016年5月25日～27日	BIOSENSORS	Tamami Haraguchi, Sayuko Shiraishi, Saki Nakamura, Honami Kojima, Miyako Yoshida, Takahiro Uchida
69.医薬品の苦味受容体（hTAS2Rs）応答と味覚センサ脂質膜応答の相関性評価	共	2016年5月19日～21日	日本薬剤学会第31年会	原口珠実、中村早貴、白石早祐子、小島穂菜美、吉田都、羽原正秋、池崎秀和、内田享弘
70.表面プラズモン共鳴（SPR）法と1H-NMRによる医薬品と苦味抑制物質の相互作用解析	共	2016年5月19日～21日	日本薬剤学会第31年会	中村早貴、白石早祐子、李達?、原口珠実、小島穂菜美、吉田都、内田享弘
71.ポリソルベート80添加によるフィルグラスチムの輸液器具への吸着抑制効果	共	2016年5月19日～21日	日本薬剤学会第31年会	小島穂菜美、丹下美緒、松本晃乃、原口珠実、吉田都、内田享弘
72.味覚センサを用いたゾピクロン錠およびエスゾピクロン錠の飲料による苦味マスキング効果の検討	共	2016年3月26日～29日	日本薬学会第136年会	吉田都，宇田篤史，原口珠実，小島穂菜美，内田享弘，山本和宏，平井みどり
73.NSAIDsを含む医薬品配合剤の味評価に関する研究	共	2016年3月26日～29日	日本薬学会第136年会	中村早貴，原口珠実，白石早祐子，小島穂菜美，吉田都，内田享弘
74.クロロゲン酸による医薬品の苦味抑制効果に及ぼす分子間相互作用の影響	共	2016年3月26日～29日	日本薬学会第136年会	原口珠実，白石早祐子，川崎郁男，西出喜代治，中村早貴，小島穂菜美，吉田都，内田享弘
75.電子味覚システムを用いたクロロゲン酸、カフェ酸、キナ酸による医薬品の苦味抑制評価	共	2016年3月26日～29日	日本薬学会第136年会	小島穂菜美，中村早貴，白石早祐子，原口珠実，吉田都，内田享弘
76.クラリスロマイシンドライシロップの品質評価	共	2015年11月21日～23日	第25回日本医療薬学会年会	小島穂菜美，福留夢姫，松本早織，原口珠実，吉田都，内田享弘
77.味覚センサを用いた複合剤の苦味予測	共	2015年11月21日～23日	第25回日本医療薬学会年会	原口珠実，中村早貴，白石早祐子，竹下華子，小島穂菜美，吉田都，内田享弘
78.The role of an impurity in ceftriaxone sodium preparation for injection in determining compatibility with calcium-containing solutions	共	2015年10月25日～29日	AAPS annual meeting	Mio Tange, Tamami Haraguchi, Honami Kojima, Miyako Yoshida, Yuka Nakai and Takahiro Uchida
79.Classification the quality of taste in drugs by	共	2015年10月25日～29日	AAPS annual meeting	Saki Nakamura, Tamami Haraguchi, Sayuko Shiraishi, Honami Kojima, Miyako Yoshida , Masaaki Habara, Hidekazu Ikezaki, Takahiro Uchida

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
principal component analysis (PCA) using taste sensor outputs				
80. Interaction analysis between drug and taste masking agent by surface plasmon resonance (SPR)	共	2015年10月25日～29日	AAPS annual meeting	Tamami Haraguchi, Saki Nakamura, Sayuko Shiraishi, Honami Kojima, Miyako Yoshida , Takahiro Uchida
81. 医薬品合剤に関する現状調査と服用性評価	共	2015年10月17日	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会	福留夢姫，松本早織，竹下華子，奥山あや，中村早貴，原口珠実，小島穂菜美， 吉田都，内田享弘
82. フィルグラスチム製剤の輸液器具への吸着に関する検討	共	2015年10月17日	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会	松本晃乃，松本美穂，丹下美緒，原口珠実，小島穂菜美，吉田都，内田享弘
83. 医薬品の苦味抑制に及ぼす因子としてのクロロゲン酸由来物質（カフェ酸、キナ酸）の効果	共	2015年10月17日	第65回日本薬学会近畿支部総会・大会	白石早祐子，川崎郁勇，西出喜代治，中村早貴，原口珠実，小島穂菜美，吉田都，内田享弘
84. Evaluation the palatability of ebastine orally disintegrating tablets using	共	2015年7月25日～29日	CRS	Takahiro Uchida, Tamami Haraguchi, Miyako Yoshida
85. 電子味覚システムを用いた医薬品の味質分類評価	共	2015年5月21日～23日	日本薬剤学会第30年会	中村早貴，原口珠実，白石早祐子，小島穂菜美，吉田都，内田享弘
86. 医薬品-苦味マスキング剤間の分子間相互作用解析	共	2015年5月21日～23日	日本薬剤学会第30年会	原口珠実，中村早貴，白石早祐子，小島穂菜美，吉田都，内田享弘
87. 自己修復を利用したOVA含有PLGAマイクロスフェア製剤の初期バースト抑	共	2015年3月25日～28日	日本薬学会第135年会	櫨川舞，原口珠実，吉田都，内田享弘
88. 味覚センサを用いたガストログラフインの味評価と飲料混合時の味変化の予測	共	2015年3月25日～28日	日本薬学会第135年会	原口珠実，吉田都，内田享弘
89. 味覚センサを用いたゾピクロンおよびエスゾピクロンの苦味評価	共	2015年3月25日～28日	日本薬学会第135年会	吉田都，宇田篤史，原口珠実，櫨川舞，内田享弘，山本和宏，平野剛，平井みどり
90. 小児用製剤の服用性評価	共	2015年3月25日～	日本薬学会第135年会	内田享弘，吉田都，原口珠実，櫨川舞
91. Bitterness classification system in active pharmaceutical ingredients using taste	共	2014年11月2日～6日	AAPS annual meeting	Miyako Yoshida , Hidekazu Ikezaki, Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Takahiro Uchida
92. Evaluation the effect of chlorogenic acid on the bitterness of medicines	共	2014年11月2日～6日	AAPS annual meeting	Tamami Haraguchi, Sayuko Kanemitsu, Mai Hazekawa, Miyako Yoshida , Takahiro Uchida
93. 味覚センサを用いたNSAIDs（非ステロイ	共	2014年10月11日	第64回日本薬学会近畿支部大会	澤田真緒，中村早貴，吉田都 ，原口珠実，櫨川舞，内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
ド性抗炎症薬）の苦味評価				
94.PLGA自己修復フィルムの薬物放出に関する基礎的検討－初期バーストに及ぼすガラス転移点の影響－	共	2014年10月11日	第64回日本薬学会近畿支部大会	中野愛，櫨川舞，原口珠実，吉田都 ，内田 享弘
95.PGI2アゴニスト含有PLGA自己修復マイクロスフェアの調製に関する検討－初期バーストに及ぼすガラス転移点の影響－	共	2014年10月11日	第64回日本薬学会近畿支部大会	櫨川舞，原口珠実，吉田都，内田享弘
96.味覚センサと分子間相互作用解析によるクロロゲン酸の医薬品苦味抑制機序	共	2014年10月11日	第64回日本薬学会近畿支部大会	原口珠実，金光早祐子，吉田都，櫨川舞，内田享弘
97.味覚センサを用いた降圧薬組み合わせ時の味相互作用機序の解明	共	2014年10月11日	第64回日本薬学会近畿支部大会	吉田都，原口珠実，櫨川舞，内田享弘
98.セフトリアキソンナトリウムとカルシウムの配合変化に及ぼすセフトリアキソン由来夾雑物の影響	共	2014年9月27日～28日	医療薬学会年会	丹下美緒、吉田都、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
99.味覚センサを用いた乳汁の味に及ぼすクリンダマイシンリン酸塩の影響に関する評価	共	2014年9月27日～28日	医療薬学会年会	吉田都、中井由佳、原口珠実、櫨川舞、内田享弘
100.服薬アドヒアランス向上を目指した医薬品開発のためのネットワーク構築	共	2014年9月27日～28日	医療薬学会年会	一般シンポジウム　オーガナイザー：内田 享弘、並木 徳之、シンポジスト：吉田都
101.アミノ酸輸液中におけるメロペネムの安定性に関する検討	共	2014年6月28日～29日	医療薬学フォーラム	丹下美緒、高子優子、吉田都、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
102.口腔内崩壊錠の経時的崩壊性評価－市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠10 mgを例にして－	共	2014年6月28日～29日	医療薬学フォーラム	櫨川舞、原口珠実、吉田都、内田享弘
103.PGI2アゴニスト含有自己修復マイクロスフェアの調製と評価	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	櫨川舞、原口珠実、吉田都、内田享弘
104.フルボキサミン－クロロゲン酸複合体形成による苦味軽減	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	金光早祐子、川崎郁勇、西出喜代治、吉田都、内田享弘
105.クロロゲン酸を用いた医薬品の苦味抑制評価	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	原口珠実、櫨川舞、吉田都、内田享弘
106.味覚センサを用いた医薬品原末のBitterness classification systemの構築	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	吉田都、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
107.薬物の苦味によるP-糖タンパクの基質認	共	2014年5月20日～22日	日本薬剤学会第29年会	三田鈴音、矢野健太郎、荒川大、原口珠実、吉田都、内田享弘、荻原琢男

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
識性の予測				
108.Prediction of the stability of octreotide in a mixed infusion	共	2014年4月26日～27日	第12回日中韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム	Yuko Takasu, Miyako Yoshida , Kaori Shimizu, Keiichi Asahara, Mio Tange, Takahiro Uchida
109.C-Metのダウンレギュレーションを伴わない新規PGI2アゴニスト反復投与の血管新生作用	共	2014年3月27日～30日	日本薬学会第134年会	櫨川舞、松本邦夫、酒井芳紀、原口珠実、吉田都、内田享弘
110.味覚センサを用いたクロロゲン酸による医薬品の苦味抑制評価	共	2014年3月27日～30日	日本薬学会第134年会	原口珠実、櫨川舞、吉田都、内田享弘
111.味覚センサを用いた降圧薬間の味相互作用評価	共	2014年3月27日～30日	日本薬学会第134年会	吉田都、原口珠実、櫨川舞、内田享弘
112.Screening of refreshments which suppress the bitterness of rebamipide contained in MucostaR ophthalmic suspension UD2% using taste sensor	共	2013年11月10日～14日	AAPS annual meeting	Takahiro Uchida, Tamami Haraguchi, Airi Miyazaki, Miyako Yoshida , Mai Hazekawa
113.苦味センサーを用いたP-糖タンパクの基質認識性の解析	共	2013年10月26日	第57回日本薬学会関東支部大会	三田鈴音、矢野健太郎、荒川大、原口珠実、吉田都、内田享弘、荻原琢男
114.味覚センサを用いたムコスタR点眼液UD2%使用時の苦味に及ぼすクロロゲン酸の影響	共	2013年10月21日	第63回日本薬学会近畿支部大会	宮崎愛里、原口珠実、 吉田都 、内田享弘
115.アミノレバンREN配合散服用時の苦味軽減に関する検討－酸味と低温による相乗的苦味抑制効果－	共	2013年10月21日	第63回日本薬学会近畿支部大会	原口珠実、 吉田都 、櫨川舞、内田享弘
116.味覚センサを用いたNSAIDsの苦味評価―苦味マスキング効果の評価への応用―	共	2013年10月21日	第63回日本薬学会近畿支部大会	吉田都 、原口珠実、櫨川舞、内田享弘
117.「薬と健康フェア」における医薬品および薬物乱用に関するアンケート調査とその解析	共	2013年9月22日～23日	第46回日本薬剤師会学術大会	櫨川舞、原口珠実、 吉田都 、内田享弘、牧孝子
118.人工唾液を用いた市販ドネペジル塩酸塩口腔内崩壊錠の崩壊性の評価	共	2013年9月21日～22日	第23回日本医療薬学会年会	櫨川舞、原口珠実、 吉田都 、内田享弘
119.味覚センサを用いたムコスタR点眼液UD2%（レバミピド）の苦味評価と飲食物の影響	共	2013年9月21日～22日	第23回日本医療薬学会年会	原口珠実、宮崎愛里、 吉田都 、櫨川舞、内田享弘
120.口腔内崩壊錠用崩壊	共	2013年9月	第23回日本医療薬	吉田都 、櫨川舞、原口珠実、内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
試験器(OD-mate)および味覚センサを用いたアムロジピンOD錠10製剤の服用性予測に関する検討		21日～22日	学会年会	
121.Bitterness prediction of intact and crushed VesicareR orally disintegrating tablets using taste sensors	共	2013年8月31日～9月5日	FIP	Tamami Haraguchi, Airi Miyazaki, Mai Hazekawa, Miyako Yoshida , Takahiro Uchida
122.注射用セフトリアキソンナトリウム製剤の溶解性比較	共	2013年8月31日	第16回日本注射薬臨床情報学会	丹下美緒、服部祐介、大塚誠、 吉田都 、萩中淳、内田享弘
123.オクトレオチドの安定性におよぼす亜硫酸水素ナトリウムの影響	共	2013年8月10日～11日	第16回日本医薬品情報学会総会・学術大会	高子優子、 吉田都 、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
124.The angiogenesis effect of a novel long-acting prostacyclin agonist loaded-PLGA microspheres prepared using different molecular weight in murine sponge model	共	2013年7月21日～24日	The 40 th Annual Meeting & Exposition of Controlled Release Society	Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Miyako Yoshida , Takahiro Uchida
125.Evaluation of palatability for 10 commercial famotidine orally disintegrating tablets by combination of disintegration apparatus for orally disintegrating tablet and taste sensor	共	2013年7月21日～24日	The 40 th Annual Meeting & Exposition of Controlled Release Society	Miyako Yoshida , Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Takahiro Uchida
126.味覚センサを用いた酸性医薬品の苦味評価	共	2013年5月23日～25日	日本薬剤学会第28年会	吉田都 、原口珠実、櫨川舞、内田享弘
127.味覚センサとOD-mateを用いたエバスチン口腔内崩壊錠の苦味評価	共	2013年5月23日～25日	日本薬剤学会第28年会	原口珠実、 吉田都 、櫨川舞、内田享弘
128.ONO-1301含有PLGAマイクロスフェア製剤の血管新生効果	共	2013年5月23日～25日	日本薬剤学会第28年会	櫨川舞、原口珠実、 吉田都 、内田享弘
129.口腔内崩壊錠用崩壊試験器および味認識測定装置を組み合わせたファモチジンOD錠10製剤の苦味予測	共	2013年3月27日～30日	日本薬学会第133年会	吉田都 、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
130.味覚センサによるム	共	2013年3月	日本薬学会第133年	宮崎愛里、原口珠実、 吉田都 、内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
コスタR点眼液UD2%使用時の苦味軽減可能な飲食物の探索		27日～30日	会	
131.注射用セフトリアキソンナトリウム製剤間の溶解性比較	共	2013年3月27日～30日	日本薬学会第133年会	丹下美緒、服部祐介、大塚誠、 吉田都 、萩中淳、内田享弘
132.マウススポンジ移植モデルを用いたPGI2アゴニストONO-1301の血管新生作用機序の検討	共	2013年3月27日30	日本薬学会第133年会	櫨川舞、森畑佳奈、松本邦夫、酒井芳紀、原口珠実、 吉田都 、内田享弘
133.ゾピクロン錠（アモバン錠R）とエスゾピクロン錠（ルネスタ錠R）の苦味評価	共	2012年10月27日～28日	第22回日本医療薬学会年会	宇田篤史、原口珠実、 吉田都 、向井啓、山和宏、久米学、槇本博雄、平野剛、内田享弘、平井 みどり
134.溶解度積を指標としたオザグレルナトリウム注射剤とカルシウムの配合変化の評価	共	2012年10月27日～28日	第22回日本医療薬学会年会	丹下美緒、梅木友里江、田中梨惠、松田華奈、 吉田都 、櫨川 舞、原口 珠実、内田 享弘
135.味覚センサを用いたアンブロキソール10製剤の苦味予測	共	2012年10月27日～28日	第22回日本医療薬学会年会	内田享弘、櫨川舞、原口珠実、 吉田都
136.分包機内の残薬量に与える薬剤の帯電性の影響	共	2012年10月27日～28日	第22回日本医療薬学会年会	櫨川舞、大砂瑞穂、原口珠実、 吉田都 、内田 享弘
137.タンニン酸・唾液混合時の沈殿物生成に及ぼすソーマチンの影響	共	2012年10月20日	第62回日本薬学会近畿支部大会	村井友美、中田愛美、北島彩可、横野祐未、原口珠実、櫨川舞、 吉田都 、内田享弘
138.味覚センサーを使用したH1受容体拮抗薬の定量的苦味評価	共	2012年10月20日	第62回日本薬学会近畿支部大会	伊藤正紀、 吉田都 、和田耕一、池崎秀和、内田享弘
139.マウススポンジ移植モデルを用いたONO-1301の血管新生作用の評価	共	2012年10月20日	第62回日本薬学会近畿支部大会	森畑佳奈、櫨川舞、原口珠実、 吉田都 、内田享弘
140.Prediction of bitterness for 10 kinds of orally disintegration tablets by taste sensor	共	2012年10月14日～18日	AAPS annual meeting	Takahiro Uchida, Mai Hazekawa, Hidekazu Ikezaki, Makoto Teraoka, Miyako Yoshida, Tamami Haraguchi
141.Effect of antioxidants on the stability of ONO-1301, a novel long-acting prostacyclin agonist, loaded in PLGA microspheres	共	2012年10月3日～8日	FIP	Takahiro Uchida, Mai Hazekawa, Miyako Yoshida
142.市販アンブロキソール錠10製剤の服用性に関する因子の評価	共	2012年7月14日～15日	医療薬学フォーラム	内田享弘、櫨川舞、原口珠実、 吉田都
143.口腔内崩壊錠用崩壊試験器と味覚センサを組み合わせたアムロジピンOD錠の苦味予測	共	2012年7月14日15	医療薬学フォーラム	吉田都 、櫨川舞、原口珠実、内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
144.味覚センサを用いたベシケアROD錠の粉砕時の苦味評価	共	2012年7月7日～8日	第15回日本医薬品情報学会	宮崎愛里、原口珠実、櫨川舞、 吉田都 、内田享弘
145.クラリスロマイシンドライシロップ水懸濁液の苦味に及ぼすpHの影響	共	2012年7月7日～8日	第15回日本医薬品情報学会	櫨川舞、 吉田都 、原口珠実、内田享弘
146.Comparison between original and generic versions of ceftriaxone sodium preparation for injection: compatibility with calcium-containing product	共	2012年6月23日～24日	2012 The 10th CJK Joint Symposium in Okayama for Clinical Information on Parenteral Drugs	Mio Tange, Miyako Yoshida, Yuka Nakai, Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi and Takahiro Uchida
147.Stability of Imipenem Preparations for Injection	共	2012年6月23日～24日	2012 The 10th CJK Joint Symposium in Okayama for Clinical Information on Parenteral Drugs	Takahiro Uchida, Miyako Yoshida , Kaori Shimizu, Yuko Takasu, Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Keiichi Asahara
148.新規苦味センサを使用したH1受容体拮抗薬の苦味評価	共	2012年5月24日～26日	日本薬剤学会第27年会	伊藤 正紀、 吉田都 、和田 耕一、池崎 秀和、内田 享弘
149.味覚センサを用いたベシケアROD錠粉砕時の苦味評価	共	2012年5月24日～26日	日本薬剤学会第27年会	原口珠実、宮崎愛里、櫨川舞、 吉田都 、内田享弘
150.口腔内崩壊錠用崩壊試験器および味覚センサを用いたアムロジピンOD錠10製剤の苦味予測	共	2012年5月24日～26日	日本薬剤学会第27年会	吉田都 、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
151.スポンジ移植モデルを用いたONO-1301含有PLGAマイクロスフェア製剤の血管新生作用の評価		2012年5月24日～26日	日本薬剤学会第27年会	櫨川舞、原口珠実、 吉田都 、酒井芳紀、内田享弘
152.注射用セフトリアキソンナトリウムの先発医薬品と後発医薬品における溶解性比較		2012年3月28日～31日	日本薬学会第132年会	丹下美緒、服部祐介、大塚誠、 吉田都 、内田享弘
153.女性薬剤師を対象とした再就職支援ニーズ探索のためのアンケート調査	共	2012年3月28日～31日	日本薬学会第132年会	吉田都 、楽原晶子、櫨川舞、原口珠実、土本寛子、片岡和三郎、豊原朋子、高橋幸一、三木知博、岡村 昇、木下健司、村田成範、上村直樹、後藤惠子、波多江崇、東海林徹、内田享弘、市川厚
154.抗酸化剤含有ONO-1301PLGAマイクロスフェア製剤の安定性に関する検討	共	2012年3月28日～31日	日本薬学会第132年会	櫨川舞、酒井芳紀、盛崎友美、原口珠実、 吉田都 、内田享弘
155.SD法を用いた市販アンブロキソール錠10製剤の服用性評価	共	2012年3月28日～31日	日本薬学会第132年会	内田享弘、永井香緒里、西川冴、櫨川舞、原口珠実、 吉田都
156.「薬と健康フェア」における後発医薬品に関する意識度調査	共	2012年3月28日～31日	日本薬学会第132年会	原口珠実、三宅里奈、櫨川 舞、 吉田都 、内田享弘、金森隆一、田中浩一

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
157. The effect of treatment with a sustained-release prostacyclin analog (ONO-1301-loaded PLGA microspheres) on short-term memory impairment in rats with transient global cerebral ischemia	共	2011年10月23日～27日	AAPS annual meeting	Mai Hazekawa, Yoshiki Sakai, Tomomi Morisaki, Tamami Haraguchi, Miyako Yoshida, Takahiro Uchida
158. Incompatibility of ROCEPHINER Intravenous and Generic Versions with Calcium-containing Products	共	2011年10月23日～27日	AAPS annual meeting	Mio Tange, Miyako Yoshida, Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi and Takahiro Uchida
159. ONO-1301含有PLGAマイクロスフェアの糖尿病性末梢神経障害への適用	共	2011年10月1日～2日	第21回日本医療薬学会年会	盛崎友美、櫨川舞、酒井芳紀、原口珠実、 吉田都 、内田享弘
160. 温度を加味した市販アンブロキソール錠の苦味予測	共	2011年10月1日～2日	第21回日本医療薬学会年会	櫨川舞，杉野友香，原口珠実，吉田都 ，内田享弘
161. 平成22年度武庫川女子大学長期実務実習に関するアンケート調査	共	2011年10月1日～2日	第21回日本医療薬学会年会	吉田都 、櫨川舞、原口珠実、土本寛子、くわ原晶子、豊原朋子、片岡和三郎、波多江崇、東海林徹、内田享弘、市川 厚
162. 注射用セフトリアキソンナトリウム製剤の配合変化におよぼす振とうの影響	共	2011年5月28日～30日	日本薬剤学会第26年会	丹下美緒、 吉田都 、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
163. 中大脳動脈閉塞モデルを用いたONO-1301 PLGA MS製剤単回投与の脳保護効果の検討	共	2011年5月28日～30日	日本薬剤学会第26年会	櫨川舞、酒井芳紀、 吉田都 、原口珠実、内田享弘
164. 武庫川女子大学における長期実務実習に関するアンケート調査	共	2011年3月28日～31日	第131年会日本薬学会	吉田都 、櫨川舞、原口珠実、土本寛子、中野えり子、くわ原晶子、豊原朋子、片岡和三郎、波多江崇、東海林徹、内田享弘、市川 厚
165. ラット繰り返し脳虚血モデルを用いたONO-1301の活性化アストロサイトの抑制を介した脳保護効果の検討	共	2011年3月28日～31日	第131年会日本薬学会	盛崎友美、櫨川　舞、酒井芳紀、原口珠実、 吉田都 、内田享弘
166. ロセフィンR静注用と後発医薬品におけるカルシウム含有製剤との配合変化について	共	2011年3月28日～31日	第131年会日本薬学会	丹下美緒、 吉田都 、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
167. The influence of the flavored powders on the unpleasant odours of AminolebanREN,	共	2010年11月14日～18日	PSWC	Miyako Yoshida , Tamami Haraguchi, Mai Hazekawa, Takahiro Uchida

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
the nutritional products for liver failure				
168.The influence of the solvent temperature on bitterness threshold of AminolebanREN	共	2010年11月14日～18日	PSWC	Tamami Haraguchi, Miyako Yoshida, Mai Hazekawa, Takahiro Uchida
169.アンブロキソール錠10製剤の苦味強度に及ぼす温度の影響－溶出量と苦味閾値の関与について－	共	2010年11月13日～14日	第40回医療薬学会年会	杉野友香，櫨川舞，原口珠実，吉田都，内田享弘
170.味覚センサを用いたアムロジピンOD錠10製剤の苦味予測	共	2010年11月13日～14日	第40回医療薬学会年会	内田享弘，櫨川舞，吉田都，原口珠実
171.クラリスロマイシン製剤の苦味に及ぼすカルボシステイン製剤またはアンブロキソール製剤のpHの影響	共	2010年11月13日～14日	第40回医療薬学会年会	櫨川舞，原口珠実，吉田都，内田享弘
172.クレメジンR細粒の吸着性と服用性に関する検討	共	2010年10月30日	第60回日本薬学会近畿支部大会	吉田都、原口珠実、櫨川舞、内田享弘
173.ベシケアR錠粉砕品服用時の味マスキングに関する検討	共	2010年10月30日	第60回日本薬学会近畿支部大会	原口珠実、吉田都、櫨川舞、内田享弘
174.「薬と健康フェア」における医薬品およびインフルエンザ対策に関するアンケート調査とその解析	共	2010年10月10日～11日	第43回日本薬剤師会学術大会	櫨川舞，丹下美緒，盛崎友美，原口珠実，吉田都，内田享弘，金森隆一，田中浩一
175.アンブロキソール錠10製剤の苦味に及ぼす溶出性と崩壊性の影響	共	2010年5月12日～14日	日本薬剤学会第25年会	杉野友香、櫨川舞、原口珠実、吉田都、内田享弘
176.イミペネムの安定性におよぼす亜硫酸水素ナトリウムの影響	共	2010年5月12日～14日	日本薬剤学会第25年会	清水香織、吉田都、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
177.アムロジピンOD錠の苦味評価 -崩壊性および溶出性について	共	2010年5月12日～14日	日本薬剤学会第25年会	櫨川舞、吉田都、原口珠実、内田享弘
178.Educational Program of Preparation of Simulated Anticancer Agents Using PhaSealRas a closed system for graduate Students in Mukogawa Women’s University	共	2010年4月24日～25日	第9回日韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム	Miyako Yoshida, Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Takahiro Uchida
179.クレメジンR細粒の吸着性および服用性に対する嚥下補助製品の影響	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会	吉田都、原口珠実、櫨川舞、内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
180.アミノレバンＲＥＮ専用フレーバーの矯臭効果に関する検討	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会	原口珠実、 吉田都 、櫨川舞、内田享弘
181.簡易溶出法を用いたアンブロキソール錠10製剤の苦味予測	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会	杉野友香，櫨川舞，原口珠実，吉田都 ，内田享弘
182.溶解度の理論予測に基づいたフェニトインナトリウム注射液の最適希釈法の検討	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会	中井由佳、徳山絵生、浅原慶一、 吉田都 、内田享弘
183.小児用ムコソルバンRDS 1.5%，嚥下補助ゼリーによるタミフルRカプセル75内容物の苦味抑制	共	2010年3月28日～30日	日本薬学会第130年会2010.3.28-30	櫨川舞，原口珠実，吉田都 ，内田享弘
184.アミノレバンRENの苦味閾値におよぼす温度の影響	共	2009年11月14日～15日	第3回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム	原口珠実、 吉田都 、櫨川舞、内田享弘
185.クラリスロマイシンドライシロップ製剤の酸性スポーツ飲料併用時及びムコダインRDS併用時の苦味予測	共	2009年11月14日～15日	第3回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム	杉野友香，櫨川舞，原口珠実，吉田都 ，内田享弘
186.Preparation of ONO-1301-loaded PLGA microsphere and improvement effect in nerve conduction velocity	共	2009年11月8日～12日	AAPS	Mai Hazekawa, Yoshiki Sakai, Miyako Yoshida, Takahiro Uchida
187.Circadian variation in μ-opioid receptor function in the brainstem was operated by manipulation of the 24-hr variation in circulating glucocorticoid levels through time-restricted feeding	共	2009年10月27日	第16回日本時間生物学会学術大会（3学会合同大会）	Tamami Haraguchi, Miyako Yoshida, Mai Hazekawa, Takashi Fujioka, Naoya Matsunaga, Satoru Koyanagi, Takahiro Uchida, Shigehiro Ohdo
188.Glucocorticoid hormone regulates the circadian coordination of μ-opioid receptor expression in mouse brainstem	共	2009年10月27日	第16回日本時間生物学会学術大会（3学会合同大会）	Miyako Yoshida, Mai Hazekawa, Tamami Haraguchi, Eriko Ikeda, Naoya Matsunaga, Satoru Koyanagi, Takahiro Uchida, Shigehiro Ohdo
189.クラリスロマイシンDSの粒度別評価	共	2009年10月24日～26日	第19回日本医療薬学会年会	櫨川舞，盛崎友美，藤井香保里，丹下美緒，原口珠実，吉田都 ，内田享弘
190.クレメジン細粒の吸着性と服用性におよぼす市販嚥下補助ゼリーの影響	共	2009年10月24日～26日	第19回日本医療薬学会年会	内田享弘、原口珠実、櫨川舞、 吉田都
191.アンブロキソール錠	共	2009年10月	第19回日本医療薬	杉野友香，櫨川舞，原口珠実，吉田都 ，内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
10製剤の苦味評価：温度の影響		24日～26日	学会年会	
192.アミノレバンRENの苦味閾値におよぼす温度の影響	共	2009年10月24日	第59回日本薬学会近畿支部総会・大会	原口珠実、 吉田都 、櫨川舞、内田享弘
193.クレメジンR細粒の吸着性と服用性におよぼす嚥下補助製品の影響	共	2009年10月24日	第59回日本薬学会近畿支部総会・大会	吉田都 、原口珠実、櫨川舞、内田享弘
194.「薬と健康フェア」における医薬品に関するアンケート調査とその解析	共	2009年10月11日～12日	第24回日本薬剤師会学術大会	櫨川舞，丹下美緒，藤井香保里，盛崎友美，原口珠実，吉田都 ，内田享弘，西脇昌子，田中浩一
195.局所持続型ONO-1301 PLGA MSの調製とその神経伝導速度改善効果	共	2009年5月21日	日本薬剤学会第24年会	櫨川舞、酒井芳紀、嶽本絵理、 吉田都 、内田享弘
196.アムロジピン口腔内崩壊錠の服用性の評価	共	2009年5月21日	日本薬剤学会第24年会	内田享弘、徳山絵生、櫨川舞、 吉田都
197.肝不全栄養剤アミノレバンENの苦味および臭みマスキング効果に関する検討	共	2009年5月21日	日本薬剤学会第24年会	吉田都 、櫨川舞、原口珠実、内田享弘
198.Prediction of interaction of Ceftriaxone and calcium ion using ionic strength	共	2009年4月18日～19日	第8回日韓合同注射薬臨床情報学シンポジウム	Yuka Nakai, Emi Tokuyama, Miyako Yoshida, Takahiro Uchida
199.アンブロキソール錠（10製剤）内服時の苦味予測に関する検討	共	2009年3月26日～28日	日本薬学会第129年会	櫨川舞、徳山絵生、 吉田都 、内田享弘
200.クラリスロマイシンドライシロップとカルボシステインドライシロップ同時服用時の苦味・後味の軽減法	共	2009年3月26日～28日	日本薬学会第129年会	内田享弘、櫨川舞、徳山絵生、 吉田都
201.イオン積を利用したロセフィンR静注用とカルシウムの配合変化の予測	共	2009年3月26日～28日	日本薬学会第129年会	徳山絵生、中井由佳、 吉田都 、浅原慶一、内田享弘
202.肝不全栄養剤アミノレバンＥＮの苦味・においにおよぼす専用フレーバーの影響	共	2009年3月26日～28日	日本薬学会第129年会	吉田都 、徳山絵生、櫨川舞、内田享弘
203.イオン積を利用したロセフィンR静注用とカルシウムの配合変化の予測	共	2008年11月29日	第11回日本注射薬臨床情報学会	徳山絵生、中井由佳、 吉田都 、浅原慶一、内田享弘
204.味センサを利用した苦味マスキング製剤の評価	共	2008年10月25日	第58回日本薬学会近畿支部総会・大会	内田享弘、徳山絵生、 吉田都 、櫨川舞
205.昼夜開講大学院における抗がん剤取り扱い手技に関する実習の意義	共	2008年10月25日	第58回日本薬学会近畿支部総会・大会	櫨川 舞、徳山 絵生，吉田 都，内田 享弘
206.肝不全栄養剤専用フ	共	2008年10月	第58回日本薬学会	吉田都 、徳山絵生、櫨川舞、内田享弘

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
レーバーの苦味・臭み抑制効果		25日	近畿支部総会・大会	
207.速崩壊型錠剤をどう取り扱うべきか？ －薬剤師を対象にした速崩壊型錠剤	共	2008年9月20日	第18回日本医療薬学会年会	内田享弘，奥原有希子，徳山絵生，吉田都
208.クラリスロマイシンドライシロップ12製剤の品質評価―含量均一性と服用性の評価―	共	2008年9月20日	第18回日本医療薬学会年会	櫨川舞、 吉田都 、徳山絵生、石坂敏彦、向井淳治、内田享弘
209.味覚センサを用いた後発品・先発品の服用性評価	共	2008年9月20日	第18回日本医療薬学会年会	徳山絵生、櫨川舞、 吉田都 、内田享弘
210.漢方薬服用ゼリーによる服用性の改善効果	共	2008年9月20日	第18回日本医療薬学会年会	吉田都 、徳山絵生、櫨川舞、内田享弘、福居篤子、藤井隆太、砂田久一
211.Inhibitory effect of aroma on the bitterness of branched-chain amino acid solutions	共	2008年8月30日	FIP（国際薬学連合）第68年会	Emi Tokuyama, Junji Mukai, Mai Hazekawa, Miyako Yoshida , and Takahiro Uchida
212.Interaction study of Rocephin (ceftriaxone) with calcium-containing products	共	2008年8月30日	FIP（国際薬学連合）第68年会	Yuka Nakai, Emi tokuyama, Toshihiko Ishizaka, Miyako Yoshida, Takahiro Uchida
213.SD法を用いたファモチジン口腔内崩壊錠の服用性評価	共	2008年05月20日	日本薬剤学会第23年会	徳山絵生、熊谷智香、櫨川舞、 吉田都 、内田享弘
214.塩基性アミノ酸の苦味・渋味抑制効果に関する基礎的検討	共	2008年05月20日	日本薬剤学会第23年会	内田享弘、熊谷智香、徳山絵生、櫨川舞、 吉田都
215.BCAAの苦味と各種香料の匂いとの相互作用－プロビット法による苦味閾値の測定－	共	2008年05月20日	日本薬剤学会第23年会	吉田都 、岡田祥恵、向井淳治、徳山絵生、櫨川舞、内田享弘
216.Inhibitory Effect of Aroma on the Bitterness of the branched-chain amino acid solutions	共	2008年4月19日～20日	The 7 th Korea-Japan Joint Symposium for Clinical Information on Parenteral Drugs	Takahiro Uchida, Junichi Mukai, Mai Hazekawa, Miyako Yoshida, Emi Tokuyama
217.セイタカアワダチソウのポリフェノール成分	共	2008年3月26日	日本薬学会第128年会	志岐寿子，原口那津美，渕野良子，藤岡稔大，吉田都 ，金海麗，石丸幹二
218.エリンギウムの炎症性疼痛に及ぼす影響（その2）	共	2008年03月26日	日本薬学会第128年会	辛島紀子，吉田都 ，藤岡稔大
219.クチナシの糖尿病におよぼす影響（その2）	共	2008年03月26日	日本薬学会第128年会	吉田都 ，寺田浩章，竹田良三，藤岡稔大
220.ケールの糖尿病におよぼす影響（その4）	共	2008年03月26日	日本薬学会第128年会	吉村友希，吉田都 ，中島文，西田翔，黒川美保子，藤岡稔大
221.ケールの糖尿病におよぼす影響（その3）	共	2007年12月9日	第24回日本薬学会九州支部大会	吉村友希，吉田都 ，中島文，西田翔，黒川美保子，藤岡稔大

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
222.エリンギウムの炎症性疼痛に及ぼす影響	共	2007年12月9日	第24回日本薬学会九州支部大会	辛島紀子，吉田都，藤岡稔大
223.生体エネルギー代謝に及ぼす概日リズム変化の影響	共	2007年12月9日	第24回日本薬学会九州支部大会	元流梨恵，藏元佑嘉子，吉田都，藤岡稔大，添田秦司，占野廣司
224.糖尿病が生体リズムに及ぼす影響	共	2007年12月9日	第24回日本薬学会九州支部大会	久保田知佳，藏元佑嘉子，吉田都，藤岡稔大，添田秦司，占野廣司
225.生体エネルギー代謝に及ぼす概日リズム変化の影響	共	2007年03月28日	日本薬学会第127年会	元流梨恵，藏元佑嘉子，吉田都，藤岡稔大，添田秦司，占野廣司
226.ケールの糖尿病におよぼす影響（その2）	共	2007年03月28日	日本薬学会第127年会	吉村友希，吉田都，西田翔，黒川美保子，藤岡稔大
227.クチナシの糖尿病におよぼす影響	共	2007年03月28日	日本薬学会第127年会	上田展也，吉田都，寺田浩章，竹田良三，藤岡稔大
228.エリンギウムの神経因性疼痛におよぼす影響	共	2007年03月28日	日本薬学会第128年会	辛島紀子，吉田都，藤岡稔大
229.ヤマブシタケの脳保護作用に関する研究	共	2006年12月9日	第23回日本薬学会九州支部大会	櫨川舞，三島健一，早川和秀，内舛健，入江圭一，吉田都，藤岡稔大，江頭伸昭，岩崎克典，藤原道弘
230.セイタカアワダチソウの組織培養と二次代謝成分	共	2006年06月16日	日本食品化学学会第１２回総会・学術大会	金海麗，穴井豊昭，石丸幹二，田中隆，河野功，吉田都，藤岡稔大
231.ケールの糖尿病に対する作用について	共	2006年03月29日	日本薬学会第126年会	西田翔，吉田都，黒川美保子，山﨑明子，藤岡稔大
232.ホンダワラ由来低分子画分の腫瘍細胞増殖抑制について	共	2006年03月29日	日本薬学会第126年会	高山梢子，吉田都，岩瀬由紀子，堀内茂隆，藤岡稔大
233.生体のエネルギー代謝に及ぼす時間制限摂食の影響	共	2006年03月29日	日本薬学会第126年会	吉永匡弘，吉田都，藤岡稔大
234.卵巣摘出マウスにおけるクチナシの抗不安作用について	共	2006年03月29日	日本薬学会第126年会	橋本和樹，吉田都，藤岡稔大，
235.モルヒネの鎮痛効果の日周リズムにおよぼす時間制限摂食の影響	共	2005年12月11日	第22回日本薬学会九州支部大会	清藤宏幸，吉田都，小柳悟，藤岡稔大，添田秦司，占野廣司，藤秀人，大戸茂弘，樋口　駿
236.ケールの生活習慣病に及ぼす影響	共	2005年12月11日	第22回日本薬学会九州支部大会	西田翔，吉田都，黒川美保子，山﨑明子，横下正彦，藤岡稔大
237.Hemiphragma heterophyllumのフェニルプロパノイド及びイリドイド配糖体	共	2005年04月28日	日本食品化学学会　第11回総会・学術大会	森暁美，穴井豊昭，石丸幹二，吉田都，藤岡稔大
238.ケールに関する研究	共	2005年03月30日	日本薬学会第125年会	中島文，吉田都，西田翔，黒川美保子，横下正彦，藤岡稔大
239.プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白発現に及ぼす海藻由来多糖成分の影響	共	2005年03月30日	日本薬学会第125年会	酒井恵子，吉田都，西田教行，松永和久，山内淳史，高田二郎，加留部善晴，片岡泰文，片峰茂，藤岡稔大
240.THE ELUCIDATION OF THE MECHANISM OF 24-HR RHYTHM OF ANALGESIC EFFECT INDUCED BY MORPHINE	共	2004年7月18日～23日	International Narcotics Research Conference	Miyako Yoshida, Toshihiro Fujioka, Shigehiro Ohdo, Shun Higuchi
241.INFLUENCE OF FEEDING SCHEDULE ON 24-HR RHYTHM OF MORPHINE	共	2004年7月18日～	International Narcotics Research Conference	Hiroyuki Kiyofuji, Miyako Yoshida, Toshihiro Fujioka, Ayaka Matsuo, Shigehiro Ohdo, Shun Higuchi

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
ANALGESIC EFFECT 242.ケールに関する研究	共	2004年03月29日	日本薬学会第124年会	中島文，吉田都，三橋國英，藤岡稔大，黒川美保子，新島範高，横下正彦
243.モルヒネの至適投薬時刻の設定を指向した研究	共	2003年09月06日	第24回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム	松尾綾香，吉田都，大戸茂弘，藤秀人，樋口駿
244.鎮痛効果を指標にした薬物活性リズムと機序解明	共	2003年3月29日	第123回日本薬学会年会	吉田都，松尾綾香，大戸茂弘，藤秀人，樋口駿
245.モルヒネの鎮痛効果の日周リズムにおよぼす時間制限摂食の影響	共	2002年12月15日	第19回日本薬学会九州支部大会	松尾綾香，吉田都，大戸茂弘，藤秀人，樋口駿
246.Chronopharmacology of analgesic effect and its tolerance induced by morphine	共	2001年9月5日	61st Congress of International Pharmaceutical Federation	Miyako Yoshida，Shigehiro Ohdo，Shun Higuchi
247.モルヒネの効果増強を目的とした時間薬理学的研究:鎮痛閾値の日周リズムと投薬タイミング	共	2000年10月24日	第38回日本癌治療学会総会	吉田都，大戸茂弘，高根浩，富吉由貴，湯川栄二，樋口駿
３．総説				
1.抗菌ペプチドのバイオコンジュゲートによる抗微生物効果	共	2023年7月	化学と工業 一般社団法人　大阪工研協会	吉田都、宇野　莉央 抗菌ペプチドと生分解性高分子のコンジュゲートを調製し、細菌や真菌に対する抗菌活性評価を行った。
2.The Bitterness Intensity of Pharmaceutical Ingredients Determined by Taste Sensor.	共	2015年2月	IEEJ Tansactions on Sensors and Micromachines, 135(2), 46-50 (2015)	Uchida T.，Yoshida M. 味覚センサを用いた医薬品原末の苦味強度に関する総説。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
６．研究費の取得状況				
1.「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」令和6年度「女子総合大学における挑戦的次世代女性リーダー育成プログラム」「架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究支援」	共	2024年8月～2025年3月	2023年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業(令和5年～10年度)	女性に優しい！地球に優しい！武庫女発フェムテック開発；抗菌消臭快適サニタリーシステムの提案 （研究代表者）
2.令和６年度(2024年)　調査・研究　助成		2024年8月	公益財団法人　一般用医薬品セルフメディケーション振興財団	ルシフェラーゼ発現乳酸菌および近赤外発光基質を用いた嚥下動態評価システムの構築
3.研究成果展開事業　A-STEPトライアウト（JPMJTM22DH）	共	2022年10月1日～2024年3月	JST	カンジダ菌を抑制する天然脂質およびペプチドの日用品への応用の可能性の検証
4.基盤研究(ｃ)（課題番号:22K06712）		2022年4月～2024年3月	科学研究費補助金	中枢神経系指向型bioconjugate合剤設計と至適投薬時刻設定による送達戦略
5.基盤研究(C)，（課		2016年4月～	科学研究費補助金	味受容機構を利用したバイオセンサの開発と製剤設計への応用，研

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
題番号：16K08425）		2021年3月		究代表者
6.基盤研究(C)（課題番号：16K08426）		2016年4月～2019年3月	科学研究費補助金	ランダムなアミノ酸配列ライブラリを利用した抗苦味受容体人工抗体の開発，研究分担者
7.第34回（平成25年度）薬学研究奨励財団　研究助成金　グループB		2014年3月	薬学研究奨励財団	ヒト苦味受容体の構造変化を考慮した医薬品の新規苦味予測技術の開発
8.基盤研究（C），（課題番号：25460234）		2013年4月～2016年3月	科学研究費補助金	IAsysを用いた医薬品の苦味予測法の確立と製剤設計への応用、研究代表者
9.基盤研究（C），（課題番号：24590226）		2012年4月～2015年3月	科学研究費補助金	培養味蕾細胞と膜電位感受性色素を組み合わせたハイブリッド型味覚センサの開発、研究分担者
10.基盤研究（C）（課題番号：22590158）		2010年4月～2013年3月	科学研究費補助金	味蕾細胞を用いた味覚測定技術の開発と苦味マスキング設計への応用、研究代表者
11.若手研究（B），（課題番号：18790133）		2006年4月～2008年3月	科学研究費補助金	フェンタニルの鎮痛効果の日周リズムを考慮した投薬設計法の開発
12.若手研究（B）（課題番号：16790116）	単	2004年4月～2006年3月	科学研究費補助金	神経因性疼痛の時間治療を指向した基礎的研究、研究代表者

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2009年4月1日2011年3月31日	兵庫県薬事審議会委員
2.2008年10月1日～2019年3月31日	日本注射薬臨床情報学会理事